## 武蔵野学院大学

# キャリア教育報告書

(2011~2012年度)

### 目 次

はじめに		2
第1章	建学の精神と職業意識	3
第2章	教育方針と人材養成	5
第3章	教養教育と旧本学の教育課程	6
第4章	本学の旧教育課程と「建学の精神」との関係	1 4
第5章	キャリア教育の導入	1 6
第6章	本学の新教育課程について	2 9
第7章	本学の新教育課程と資格	3 9
(付録)	インターンシップに関する取り組みについて	4 6
(付録)	ボランティアに関する取り組みについて	4 9
	新教育課程と資格等との履修上の関係	5 4
まとめ		6 0
注		6 1

#### はじめに

武蔵野学院大学(以下、本学と略す)開学して9年目を迎える。まだまだ新参の大学ではあるが、多くの大学が設置申請時の履行状況や学生確保が十分な状態になく、文部科学省より留意事項をふされているが、本学は現在こうした留意事項はない。しかし、留意事項がないからといって大学として問題はないかと言えばそうではない。文部科学省より留意事項を指摘されていなくても、研究・教育機関としてこれで「よし」などという完成型はないからである。また、学生募集も留意事項を付されていないが、定員確保に至っていない状態である。

大学の学生募集にとって一般的に重要とみられるのは入口と出口の問題である。入口は入学試験であり、出口とは卒業後の進路先となろう。通常は就職状況ということになろう。入学試験における受験者も、待っていれば集まるようなことはなく、大学からの情報発信、オープンキャンパスの内容、入試形態、合格後の入学予定者への指導などまずは「大学を知ってもらうこと」が必要である。さらに、そこから本学の特徴は何か、他の大学との差別化が求められて来る。

出口の問題は単純に就職率を上げればよいというものではない。物事は常に積み重ねが重要だからだ。卒業までの間に大学生活を充実させるためには、単に授業で単位を取得すればいい、アルバイトと両立できればいいというようなものでもない。「自立」という言葉を多用し過ぎて、すべてを学生任せすることもできない時代である。

大学も「教育」機関である以上、学生の進路にいてこれまで以上に積極的に取り組む必要性が 生じて来た。それは法律が改正されたからということではなく、一般にいわれる学生の「こども 化」や「ゆとり教育」の影響、マニュアル化の弊害、さらにはデジタルツールの発達の弊害とし て対面によるコミュニケーションを苦手とする学生が多くいることだ。社会に巣立つにあたり問 題解決能力の開発がさらに必要になってきたという現実的な問題がある。

本報告書では2011年度~2012年度のキャリア教育への取組と今後の予定等を踏まえて報告するものである。なお、2013年度より本学では新しい教育課程と資格がスタートとするが、まさにキャリア教育に向けての取組が推し進められるものとなる。なお、本報告書は2011年度~2012年度で本学のキャリア教育を推進してきたキャリア・デザイン担当の鈴木映衣子講師、高知利香講師よりの情報提供等を受け、全体を教務部長・佐々木隆が取りまとめたものである。

#### 第1章 建学の精神と職業意識

本学は 2004 年 4 月に開学したが、その沿革としてはその前身として武蔵野短期大学国際教養学科もあるが、本学は大学設置と共に開学した。大学の設置の趣旨等は「建学の精神」に盛り込まれている。

武蔵野学院は明治 45(1910)年の設立時より、建学の精神「報恩感謝の精神」を他者を理解した上で報恩感謝の精神が生じてくるとの現代的な表現を行い、異なる他者を理解する精神を尊重し、①社会をリードする先進的職業人として自覚のある人材を育成することと定め、教育に専心してきた。

この伝統とする教育理念を基本とし、それを大学教育において具現化すべく、昭和 56(1981) 年に設置した武蔵野短期大学幼児教育学科において、幼児の教育・保育者としての専門的な知識と能力を持った人材の育成に務めてきた。また、平成 3(1991)年に設置した国際教養学科では、開かれた国際社会に進出するため、語学に熟達し、国際関係、各地域の文化・歴史等についての認識を深め、多様な外国文化を尊重する人材養成を目指してきた。その後、②グローバル化・ボーダレス化の進行とともに、国籍や言語、民族や文化の違いを超えて高度なコミュニケーションをとれる人材の養成という社会の要請に応え、複眼的、国際的な視野からものごとを考えることのできる柔軟な思考力と豊かな感性、そして創造力を備え、それを単に知識に留めることなく、③他者理解に基づいた共生の理念をもって国際社会に通用する実践的で高度なコミュニケーション能力を備えた人材養成をはかるため、武蔵野学院大学国際コミュニケーション学部を設置した。

際的な他者理解を念頭に置いた異文化理解・国際情勢理解・地域事情理解を深めながら国際的な共生の理念をもち、国際言語である英語はもとよりコンピュータなどのコミュニケーションツールを駆使して自らの考えを積極的に発信できる国際コミュニケーション能力を持った人材を養成し、また、教育形態としての男女別学の社会的な役割が終焉を迎え、激動する現代社会において国際感覚を備え、国際的舞台で活躍しうる教養・知識と行動力、経験に裏打ちされたコミュニケーション能力を待つ人材を、男女を問わず育成することが社会的に要請されていることから、共学の大学を設立し、「他者理解」の能力をもち、「他者理解」に基づいて行動できる人間を育成することを建学の精神として掲げることとした。

本学の教育理念は、実践力を身につけることを目指すものであるから、知識は生きた知識であり、能力はすべて実際的な能力でなければならない。学生がこの本学建学の精神と教育の特色を理解し、自覚して勉学に力を尽くし、立派に社会に巣立っていくことを期待する。

人材養成の観点からポイントを示せば上記に示した下線①~④となろう。

①社会をリードする先進的職業人として自覚のある人材を育成については言えば、学院全体の建学の精神である。学校法人の前身まで遡れば 1912 年設置の大橋幼稚園に辿りつくが、その後は大橋家政女学校へとつながる。武蔵野短期大学幼児教育学科が設置された 1981 年以来「自覚ある女性たれ」が建学の精神として掲げられてきた経緯がある。当時は働く女性のシンボル的な

職業が幼児教育者・保育者であったとも言える。その後時代の要請を反映して 1991 年には国際教養学科を増設 (2005 年廃止) した。キャリア教育の一環として「秘書士」「情報処理士」「プレゼンテーション実務士」(現、全国大学実務教育協会認定)の資格の教育課程を配置していた。その後は国際教養学科を研究・教育内容をさらに充実させるべく、2004 年に共学の 4 年制大学、武蔵野学院大学国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科の設置に至っている。より専門的な能力開発をした人材の育成に務めることとなった。

②グローバル化・ボーダレス化の進行とともに、国籍や言語、民族や文化の違いを超えて高度なコミュニケーションをとれる人材の養成については、1991年に武蔵野短期大学国際教養学科が設置された際に「国際教養」という概念がはいり、それをさらに推し進めたものが「国際コミュニケーション」という考え方である。グローバル化・ボーダレス化の時代の職業は、国籍や言語、民族や文化の違いを超えて高度なコミュニケーションのできる人材ということになる。ここには高度な言語によるコミュニケーション能力を備えている必要がある。卓越した語学力の備えた人材は職業を考えた時には無限の可能性を秘めていることになる。

③他者理解に基づいた共生の理念をもって国際社会に通用する実践的で高度なコミュニケーション能力を備えた人材養成については、単なる外国語コミュニケーションに卓越しているだけでは実現しない。国際社会は地政学的にみても、近くて遠い国が存在し、概念、文化、宗教が絡み合っており、サミュエル・ハンチントンの言う通り国際社会は「対立」から「共生」の時代へと移り変わっていくのかもしれない。こうした共生の考え方は日常生活、労働現場においても国内外において異文化で育った人、外国人との交流、共同作業は避けられない現実がある。

④国際化・グローバル化が一般化した現代社会において期待されている国際的な他者理解を念頭に置いた異文化理解・国際情勢理解・地域事情理解を深めながら国際的な共生の理念をもち、国際言語である英語はもとよりコンピュータなどのコミュニケーションツールを駆使して自らの考えを積極的に発信できる国際コミュニケーション能力を持った人材を養成についてはグローバル・リテラシーの開発が重要となる。グローバル・リテラシーとは国際対話能力のことであり、具体的には外国語によるコミュニケーション能力と情報発信能力のことである。本学で設置した外国語科目は英語、中国語、フランス語である。また、2013 年度よりはこれに韓国語を加えた。留学生向けには当然のことながら、日本語も配置している。情報発信能力はインターネットの活用である。これに必要な能力を開発することである。すでにデジタルネイティヴと呼ばれる世代の学生が入学することになったこと、スマートフォンを初めとするデジタルツールをほとんどの学生が所有していること、また、本学でも2010年度に学内の無線ラン化を図り、2011年入学生よりipadを無償貸与するようになり、グローバル・リテラシー開発に取り組んでいる。

「建学の精神」に「キャリア教育」という言葉はないが、「<u>社会をリードする先進的職業人として自覚のある人材を育成」</u>とあるように、本学の建学の精神にはすでに職業意識を高めること、キャリア教育を行うことが前提となっており、その中心的なものを「他者理解」とした。「他者理解」はコミュニケーションでは必須の概念であり、国際コミュニケーション学部の性格からグローバル・リテラシーに注視した。

#### 第2章 教育方針と人材養成

大学の教育方針は建学の精神に基づき定めることになる。本学の場合には「他者理解」に基づき4つの教育方針を定めた。

- 1 国際的な視野を持ち、自己や自国文化および多様な他者に対する理解力に裏付けられた 国際社会に貢献する人材の育成を目指す。
- 2 国際的な協調、国際的な理解があらゆる分野で望まれている国家的要請に応え、異なる 他者とのコミュニケーションを実現していくツールとして、コンピュータ技術を習得す るとともに、社会で英語を使いこなせる英語コミュニケーション能力に長けた人材を育 成する。
- 3 教養を単に知識に止めるのではなく、体験を通じて身につけることにより自発的に国際 社会に貢献しうる人材を育成する。
- 4 多様化する社会に対応するため、異文化への理解、尊重や交流、グローバルな視野で多元的に思考し、行動する貿の高い人材の育成を目指す。

4つの教育方針をさらに具体化するために「教育上の理念、目的および養成する人材像」を明示している。

現代社会では、「グローバル化」「ボーダレース化」が進み、異文化に対する理解、尊重や相互交流、地球的・多元的な視野が求められています。又、その前提としての自国文化・日本事情への理解や、少子高齢化に伴う異なる世代への理解力も期待されています。変化が速い社会にあっては、法律、政治、経済等への理解も必須です。このような社会にあって、本学では、国際的な視野をもち、自己や自国文化、および多様な他者に対する理解力に裏付けられた人材の養成を目指しています。

- ①国際語である英語の能力、プレゼンテーション、ビジネス、インターネット等の応用力 を習得し、仏語、中国語といった語学能力の幅を広げること。
- ②異文化や国際社会を理解すること。
- ③自国文化や歴史、社会を理解すること。
- ④乳幼児や高齢者等を理解すること。
- ⑤ボランティアやインターンシップ、海外研修等の「行動・体験」の領域を重視すること。

2013年度より教育課程の変更により、2013年度新入生から①は以下のように変わる。

①国際語である英語の能力、プレゼンテーション、ビジネス、インターネット等の応用力 を習得し、仏語、中国語、韓国語といった語学能力の幅を広げること。

#### 第3章 教養教育と本学の教育課程

キャリア教育を推進するには基礎学力が根底にあることは言うまでもないことだ。大学では一般に基礎科目(教養科目)又は一般教育と専門科目又は専門教育で構成されることが多い。

1991年の大学設置基準の改正で一般教育と専門教育の区分が撤廃されたが、2001年2月21日には中央教育審議会の答申として「新しい時代における教養教育の在り方について」が発表された。ここでは2001年の「新しい時代における教養教育の在り方について」、2006年の改正教育基本法に注目し、最終的には事例として武蔵野学院大学の教育課程(卒業要件科目)を取り上げ、教養教育から本学の教育について考察を加えてみたい。

#### 1 教養とは何か

一般に「教養教育」とはどのように捉えられているのであろうか。『広辞苑』(第六版)には「教養教育」の見出し語はないが、「教養」の見出し語があり、それによれば次のように定義されている。

- ①教え育てること。
- ② (culture イギリス・Bildung ドイツ)学問・芸術などにより人間性。知性を磨き高めること。 その基礎となる文化的内容・知識・振る舞い方などは時代や民族の文化理念の変遷に応じ て異なる。<sup>(1)</sup>

現在、特に教養として取り上げられているのは「学問・芸術などにより人間性。知性を磨き高めること。その基礎となる文化的内容・知識・振る舞い方など」ということになろう。この定義によれば、いわゆる「教養」には人間形成に係ること、知識等に係る部分があると考えられる。これを学校教育という場に当てはめて考えれば、「人間教育としての教養」と「授業による教養教育」との面に分かれよう。「授業におる教養教育」を従来の「人文学」「社会学」「法学」といったような分野に拘ると「時代や民族の文化理念の変遷」に応じた内容に対応できなくなっているのが現状であろう。では、現代における「教養」にとってコアとなるものとは何か。「言語運用能力」と「情報に関する能力」ではないだろうか。「言語運用能力」とは「母語である国語(日本語に関する読解、表現、プレゼンテーションに関する能力」と「外国語の運用能力」がある。また、「情報に関する能力」とは高度情報社会の現代に生きるものとしてPCの活用及びインターネットの活用に関する能力」ではないだろうか。特に「言語運用能力」や「コミュニケーション能力」はすべての分野に共通するものであることは言うまでもないことだ。

2000 年 1 月に小渕恵三首相による私的懇談会「21 世紀日本の構想 日本のフロンティアは日本の中にある」には「グローバル・リテラシー (国際対話能力)」という考え方が示されている。「グローバル・リテラシー」とは「世界へアクセスする能力」「世界と対話できる能力」<sup>(2)</sup>である。

この能力の基本は、コンピュータやインターネットといった情報技術を使いこなせることと、 国際共通語としての英語を使いこなせることである。<sup>(3)</sup> これはまさに21世紀日本の教養といえるのではないだろうか。

#### 2 言語運用能力からコミュニケーション能力へ

教育とコミュニケーションを扱った比較的初期のものとして木原健太郎『授業とコミュニケーション』(1963)といった単行本もあるが、ここでは教育辞典を中心に「コミュニケーション」の捉え方を紹介しておきたい。教育は社会からの要請により、様々に変化することは周知の通りである。「学級運営」という考え方は「学級経営」に変わったことと同じように、「言語運用能力」は「実践的コミュニケーション能力」へとその表現や考え方が変わってきた。

辰野千寿編『学習指導用語事典』(1987) には山下直治「教授―学習過程」、渡邉寛治「コミュニケーション重視の指導」を取り上げておきたい。前者にはその説明の中で直接「コミュニケーション」という用語は使用されていないが、「相対的に独立した教授主体の活動と学習主体の活動とが、相互に知的対決を展開する過程であることが意味されている」(4)という表現がある。一方後者は「VII 学習指導と教科教育」の「9 外国語科」の中で取り扱われている。

伝達重視の指導には、Communicative Approach (CA)とか Communicative Language Teaching と呼ばれる教授法がある。これは、言語によって表れされる意味や、言語によって遂行される機能に重点をおいた syllabus に基づく教授法のことを言う。・・・(中略)・・・ CA による言語学習が習得する目標とする communicative competence(伝達能力)には、少なくとも文法能力、談話能力社会言語学的能力の三能力が含まれているといえよう。(5)

東洋・奥田真丈・河野重男編代表『学校教育辞典』(1988)には以下のように定義されている。

コミュニケーション(communication)いろいろな記号を用いてメッセージを構成し、それによって知識や意味などを伝達あるいは交換する過程をいうが、コミュニケーション理論が教育の面で適用されたのは、視聴覚教育においてである。・・・・(中略)・・・

視聴覚メディアが教師と学習者の間に入って、両者のコミュニケーションの仲立ちすることは、言語中心主義の教育に比べ、教師の教育機能を格段に拡大させ、学習者の学習意欲を増大させる。

教育(教授=学習)の過程をコミュニケーションの過程としてとらえる視点は、教育工学においては更に強化され、教育過程を一つのシステムとしてとらえ、そのシステム全体の効果的、効率的な設計を実践課題とするようになった。<sup>(6)</sup>

岩内亮一・萩原元昭・深谷昌志・本吉修二編『新版教育学用語辞典』(1990) には萩原元昭「コミュニケーション communication」の項目がある。一般的な定義のあとに次のような説明が続いている。

情報量が拡大され、氾濫し、情報の処理が困難な現代では、学校は情報選択の方法の伝達

に関して大きな期待がもたれている。<sup>(7)</sup>

2000 年以降のものを見てみたい。細谷俊夫他編『新教育学大事典』(2000) には阿久津喜弘「コミュニケーションと教育」という見出し顔があり、「コミュニケーションの概念」「教育過程とコミュニケーション」「コミュニケーション分析と教育過程分析」から構成されている。「教育過程とコミュニケーション」には次のように説明されている。

教育過程 educational process は、教育による社会過程や人間形成過程は、あるいは教授・学習過程としてとらえられる。 $^{(8)}$ 

今野喜清・新井郁男・児島邦宏編代表『新版学校教育辞典』(2003) には「コミュニケーション」の見出し語はないが、「コミュニケーション能力」の見出し顔がある。説明は「意義」「言語的―非言語的」「課題」の3構成からなるが、「意義」が最も教育に関連した内容である。

コミュニケーションとは情報や意見の相互伝達をいうのが普通である。その「能力」が教育界で強調されるようになったのは、この 10 年ほどのことであり、1998 年(平成 10)年改訂の学習指導要領の国語科において、「伝え合う力」としてのコミュニケーション能力の育成が重視されている。その背景には、最近の子どもの意見伝達・意思疎通の能力が著しく低下しており、社会性・社会的諸能力全般に大きな影響を及ぼしていることが心配されていることがある。(9)

ここでは国語科の学習指導要領にしているが、学習指導要領において「コミュニケーション」が 初めて取り上げられたのは、1989年3月に告示された『中学校学習指導要領』及び『高等学校指 導要領』の「外国語」、「英語」の目標である。

外国語を理解し、外国語で表現する基礎的な能力を養い、外国語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるとともに、言語や文化に対する関心を深め、国際理解を培う。(『中学校学習指導要領』) (10)

英語を理解し、英語で表現する基礎的な能力を養い、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるとともに、言語や文化に対する関心を深め、国際理解を培う。 (『高等学校学習指導要領』) (11)

ちなみに最新の『中学校学習指導要領』(2003) は以下の通りである。

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。(『中学校学習指導要領』) (12)

同様に最新の『高等学校学習指導要領』(2003) は以下の通りである。

#### 普通教育

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や相手の意向などを理解したり自分の考えなどを表現したりする実践的コミュニケーション能力を養う。(13)

#### 専門教育

英語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や相手の意向などを理解したり自分の考えなどを表現したりする実践的コミュニケーション能力を養う。 $^{(14)}$ 

中谷彪・浪本勝年『現代教育用語辞典』(2003) には「コミュニケーション」の見出し語はない。 岩内亮一・本吉修二・明石要一編代表『教育学用語辞典[第四版]』(2006) には山下修一「コミュニケーション」の項目では一般的な定義の説明のあと、次のように説明している。

コミュニケーションの定義は多様であるが、単なるやりとりを意味するインタラクション (interaction)と区別して、意図をもった情報伝達過程とみることができる。この場合には、 伝達する情報のみならず、誰が、どんな場面で、どのように発信したのかといった背景情報 も伝達され、情報の受けても、自分の都合にあわせて取捨選択する。教授・学習過程も、教員と生徒のダイナミックなコミュニケーションの積み重ねとみることができる。(15)

教育界におけるコミュニケーションは言語科目(英語科、国語科)における実践的なコミュニケーションという教科目の教授内容を反映したものと、人間関係におけるコミュニケーションの二つの意味が存在する。後者は具体的に言えば、教師と生徒と保護者といった人間関係におけるコミュニケーションの意味となろう。もともとは言語運用能力と呼ばれていたものは文法的に正しい言語能力となるが、これがコミュニケーションにとって代わられたのはそこに人間関係を強く意識したからに他ならない。

#### 3 「新しい時代における教養教育の在り方について」

1991 年の大学設置基準の改正で一般教育・専門教育の区分が撤廃されたことを受けて、一般教育の扱い方も大学により大きくことなることとなった。大学教育では一般教育=一般教養という考え方があったが、大学における取り扱いもそれぞれバラバラである。2001 年 2 月 21 日に中央教育審議会より「新しい時代における教養教育の在り方」(答申)が発表された。そのおもな内容は以下の通りである。

はじめに

第1章 今なぜ「教養」なのか

- 第2章 新しい時代に求められる教養とは何か
- 第3章 そのように教養を培っていくのか
  - 第1節 幼・少年期における教養教育
  - 第2節 青年期における教養教育
  - 第3節 成人の教養の涵養

まず「はじめに」の中で注目しておきたい2箇所がある

社会全体の価値観の多様化、体系的な知識よりも断片的な情報が偏重されがちな情報化社会の性格、効率を優先して精神の豊かさを軽視する風潮の広がりなどがこの傾向に拍車をかけたと考えられる。(16)

上記を踏まえて上で目指しているのは「新しい時代にふさわしい品格を備えた教養社会の実現」<sup>(17)</sup>ということになる。

「第1章 今なぜ『教養』なのか」においては「はじめに」を受けて分析とその目指すところが記述されている。

社会全体に漂う目的喪失感や閉塞感の中で、学ぶことの目的意識が見失われ、まじめに勉強したり、自ら進んで努力して何かを身に付けていくことの意義を軽んじる風潮が広がっている。 (18)

こうした状況の中で「教養は、個人の人格形成にとって重要であるのみならず、目に見えない社会の基盤でもある」(19)と指摘し、人間教育としての教養のあり方についても触れている。

「第2章 新しい時代に求められる教養とは何か」においては「教養」に関する定義と新しい時代に求められる教養について重視した5つの点を明示している。まず定義については以下の通りである。

教養とは、個人が社会とかかわり、経験を積み、体系的な知識や知恵を獲得する過程で身に付けるものの見方、考え方、価値観の総体ということができる。(20)

この定義は前述の『広辞苑』の定義と内容的には同様である。強調されている部分は「個人が社会とかかわり」がはっきりと明文化されたことだろうで。は重視した5点についてそのポイントを見ておきたい。

- (1) 社会とのかかわりの中で自己を位置付け
- (2) 異なる国や地域の伝統や文化を理解し、お互いに尊重し合うことのできる資質・態度を身に付ける必要がある。世界の人々と外国語で的確に意志疎通を図る能力も求められる。
- (3) 倫理的な課題や、環境問題なども含めた科学技術の功罪両面についての正確な理解力

#### や判断力

- (4) 知的活動の基盤となる国語力の育成
- (5)「修養的教養」。我が国の生活文化や伝統文化の価値を改めて見直す (21)

「第3章 どのように教養を培っていくのか」においては、重視すべき観点として3点を取り上げている。

- (1) 教養とは、本来自発的に身に付けるべきものであり、学ぼうとする意欲が重要である。 自発的に学ぼうとする力の基礎には、忍耐力や勤勉性が不可欠である。
- (2) 教養教育は、個人が生涯にわたって新しい知識を獲得し、それを統合していく力を育 てることを目指すものでなければならないということである。
- (3) 教養の涵養にとって、異文化との接触が重要な意味を持つということである。<sup>(22)</sup>

「第2部 青年期における教養教育」の「3 大学における教養教育」注目しておきたい。その中で先ず中心となる考え方は以下の通りである。

専門分野の枠を超えて共通に求められる知識や思考法などの知的な技法の獲得や、人間としての在り方や生き方に関する深い洞察、現実を正しく理解する力の函養など、新しい時代に求められる教養教育の制度設計に全力で取り組む必要がある。(23)

本来大学で学ぶべきものであるかどうかは別にして、協調性、情報を正しく理解する力、国内でのボランティア活動、インターンシップなどの職業体験なども教養を培う上で重要であると指摘されている。<sup>(24)</sup> これは教養教育に限らず、教育とは生き方を学ぶこと、人格の完成が根底にあることは周知の通りである。

- 「(2) 具体的な方策」は特に3つの観点が示されている。
- ◇新しい体系による教養教育のカリキュラムについて
- ◇質の高い授業を実現するための授業内容・方法等の改善
- ◇きめ細やかな指導の推進<sup>(25)</sup>

これらには具体的に「外国語によるコミュニケーション能力」、「コンピュータによる情報処理能力」「各大学が、学生に和漢洋の古典を中心とした書物等(「グレートブックス」)のリストを提示」「新入生に対し大学での学び方等の導入教育」(26)を明記しているのである。「外国語によるコミュニケーション能力」、「コンピュータによる情報処理能力」については言えば、前述の「グローバル・リテラシー(国際対話能力)」ということになろう。

#### 3 改正教育基本法

教育基本法は2006年12月22日に改正された。教育基本法は日本における教育の根本姿勢を定

めるものであり、その中における「教養」の取り扱いについてみてみたい。まず、前文は以下の通 りである。

我々日本国民は、たゆまぬ努力によって築いてきた民主的で文化的な国家を更に発展させるとともに、世界の平和と人類の福祉の向上に貢献することを願うものである。

我々は、この理想を実現するため、個人の尊厳を重んじ、真理と正義を希求し、公共の糯申を尊び、豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成を期するとともに、伝統を継承し、新 しい文化の創造を目指す教育を推進する。

ここに、我々は、日本国憲法の精神にのっとり、我が国の未来を切り拓く教育の基本を確立し、その振興を図るため、この法律を制定する。

「公共の精神を尊び、豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成」はまさに「教養教育」の目指すところである。個人と社会の関係を理解するには「公共の樹中」は必ず必要なことである。では 具体に(教育の目的)第一条、(教育の目標)第二条(教育の目標)を見てみたい。

(教育の目的)

第一条 教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な 資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。

(教育の目標)

- 第二条 教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成 するよう行われるものとする。
  - 一幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を 培うとともに、健やかな身体を養うこと。
  - 二 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を 養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。
  - 三 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずろとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
  - 四 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。
  - 五 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、 他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

教育の目的を達成するための目標には教養が取り上げられている。特に第二条の一には「幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと」とある。教育基本法においても「教養」は重要な位置を占めていると考えられる。

#### 4本学の旧教育課程

本学は 2004 年の開学より同一の教育課程は維持してきたが、2013 年度より新しい教育課程で

スタートすることになる。そこで 2004 年開学の教育課程を旧教育課程と呼びこととする。旧教育課程(卒業要件科目) は区分としては基礎科目と専門科目から分かれている。教育の内容として一般教育が基礎科目を中心に、専門教育が専門科目を中心に行われることになるが、必ずしも一般教育を構成する科目=一般教育科目=基礎科目、専門教育を構成する科目=専門教育科目=専門科目という単純なものとして構成されているわけではない。これは学士(国際コミュニケーション)というディスプリンとの関係があるからだ。設置認可を受けた際の学問的な分野は「文学」ではあるが、学問の性格上、社会学的な要素もかなり含まれている。こうしたことを考慮すると、何を以て「教養」とするかは、大学独自の考え方もあるが、まずはその中心となる基礎科目を示しておきたい。基礎科目はすべて選択科目であるが、すべて2単位、卒業要件単位としては合計20単位以上の選択必修単位が課せられている。

#### 文化

文学、歴史、民俗学、倫理学

社会

日本国憲法、現代社会と法、現代社会と政治、現代社会とビジネス、現代社会と情報

科学

環境と科学、生活と自然、生活と科学、コンピュータと情報数学

スポーツ

保健体育、スポーツ1、スポーツ2,スポーツ3、スポーツと健康1、スポーツと健康2 総合科目

英語コミュニケーション、中国語コミュニケーション、かけがえの ない地球、人間と安全保障、女性論、ボランティア、現代企業と職業、リカレント教育論

基礎科目は「人文」「社会」「科学」「スポーツ」「総合科目」に分かれているが、「社会全体の価値観の多様化」(27)を理解するような内容で構成されていることが重要である。この意味で「現代社会と法」「現代社会と政治」「現代社会とビジネス」「現代社会と情報」はその特徴を備えている。また、基礎科目の中でも「総合科目」はいわゆる「総合的な学習の時間」をさらに深めたものであると同時に、様々な分野を横断する科目が配置された。武蔵野学院大学の基礎科目は「新しい時代における教養教育の在り方について」に概して内容を反映していると言ってよい。

「外国語によるコミュニケーション能力」、「コンピュータによる情報処理能力」については基礎科目では不十分であるが、これに専門科目の必修科目8科目16単位を加えることで十分に対応できるだろう。その8科目16単位(すべて1科目2単位)は以下の通りである。

Freshman English Reading, Freshman English Writing, Freshman Oral English, Advanced English Reading, Advanced English Writing, Advanced Oral English, 情報処理入門, Computer Training 1

もちろん、英語にしろ情報関連の科目にしてもさらに多くの選択科目が用意されたことは言うまでもない。

#### 第4章 本学の旧教育課程と「建学の精神」との関係

本学の「建学の精神」は「他者理解」であるが、これを実現するための養成する人材像とは以下の 通りである。

- ① 国際語である英語の能力、プレゼンテーション、ビジネス、インターネット等の応用力 を習得し、仏語、中国語といった語学能力の幅を広げること。
- ② 文化や国際社会を理解すること。
- ③ 自国文化や歴史、社会を理解すること。
- ④ 乳幼児や高齢者等を理解すること。
- ⑤ ボランティアやインターンシップ、海外研修等の「行動・体験」の領域を重視すること。

上記を実現するために「異文化理解」「ビジネス理解」「人間理解」の3つの履修モデルがある。 この5点は前述の「新しい時代における教養教育の在り方について」の「第2章 新しい時代に 求められる教養とは何か」で重視されていた5点とオーバーラップするものではないだろうか。 再度取り上げておきたい。

- (1) 社会とのかかわりの中で自己を位置付け
- (2) 異なる国や地域の伝統や文化を理解し、お互いに尊重し合うことのできる資質・態度を身に付ける必要がある。世界の人々と外国語で的確に意志疎通を図る能力も求められる。
- (3) 倫理的な課題や、環境問題なども含めた科学技術の功罪両面についての正確な理解力や 判断力
- (4) 知的活動の基盤となる国語力の育成
- (5)「修養的教養」。我が国の生活文化や伝統文化の価値を改めて見直す(16)
- (1) については本学の建学の精神である「他者理解」そのものがこれに当たる。(2) については、本学の人材養成像の①・②・③がまさにそれに充当するものだ。本学では専門科目・専門実習科目・専門ゼミ科目として以下のような区分を設けている。

言語コミュニケーション科目
コンピュータコミュンケーション科目
人間コミュニケーション科目
日本理解関連科目
国際情勢関連科目
地域事情関連科目
国際コミュニケーション実習
国際コミュニケーション関連ゼミ

「国際コミュニケーション実習」の具体的な科目には以下のものが配置されている。

海外研修、国際交流、インターンシップL インターンシップ2、国際ボランティア、ボランティア1,ボランティア2、日本の伝統文化1 (華道・茶道)、日本の伝統文化2 (書道・伝統芸能)

(3) については、基礎科目の「文化」「社会」「科学」「総合科目」などがおもにそれに当たる。特に環境問題については大きな関心事であることは言うまでもないことだ。本学独自の科目「かけがえのない地球」なども特徴ある科目である。もちろんそれ以外にも倫理的な課題という意味では「倫理学」、「現代社会と情報」、に加え、「専門科目」の「情報関連法規」などがこれをカバーすることになろう。

課題が残るとすれば、「(4)知的活動の基盤となる国語力の育成」であろう。本学には卒業要件科目とは別に資格の課程(日本語教員養成課程、プレゼンテーション実務士)もあり、その中に日本語表現法が開設されている。養成する人材像の①には以下のようにある。

国際語である英語の能力、プレゼンテーション、ビジネス、インターネット等の応用力を習得し、仏語、中国語といった語学能力の幅を広げること。

ここには当然国語力が含まれる。「グローバル・リテラシー」そのものを身に付けることが人材養成像として標榜されているのである。(5)については、「基礎科目」に「民俗学」、「専門科目」に「日本文化論」、「日本の生活文化」、「日本の伝統文化1(華道・茶道))、「日本の伝統文化2(書道・伝統芸能))などが配置されていることからも、異文化理解と同時に日本人としてのアイデンティティを確認し、自文化の再評価をする科目も配置されているのだ。

「新しい時代における教養教育の在り方について」を中心に本学の「教養教育の在り方」について考察してきた。本学では「基礎科目」+「専門科目」の必修科目が教養教育の内容という考え方が大きな枠組みとなる。つまり、設置された段階ですでに、カリキュラムについては大きな問題はないとうことになろう。既述の通り「(4)知的活動の基盤となる国語力の育成」については、さらに充実する必要があるだろう。しかし、カリキュラムだけがあっても教育は決して実現されるものではない。問題なのは授業内容・方法、きめ細やかな指導の推進が伴わなければならないことだ。この意味でFD(Faculty Development)の持つ役割は大きい。本学における2008年度の目標のひとつに「授業の工夫」が全学的な取り組みとして設定された。そして、その一環としていわゆる「授業見学」についても積極的を行ってきた。授業見学の内容についても全教員にフィードバックされるが、それを受けて教員個々人がどのように対応・改善していくかが最大のポイントとなろう。最終的には教員の教育力に負うところが大きいのが現状である。

#### 第5章 キャリア教育の導入

本学は設置時より「体験型の学び」を重視して来た。特に国際コミュニケーション学部である以上、「海外研修」等にはより多くの学生に履修し、海外体験を積んでもらいたいと当初は考えていた。しかし、昨今の経済的不況や学生自身の内志向もあり、現在、「海外研修」は履修者が少なくなくなっている現状がある。また、履修方法についても「海外研修」履修者が優遇されるよう工夫の必要も感じていた。

2010 年 3 月 12 日付けで「大学設置基準及び短期大学設置基準の一部を改正する省令の施行について」(21 文科高第 628 号)の通知により、2011 年 4 月より同設置基準の改正が行われることが発表された。通知による改正の趣旨は以下の通りである。

学生の資質能力に対する社会からの要請や、学生の多様化に伴う卒業後の職業生活等への 移行支援の必要性等が高まっており、教育課程の内外を通じて社会的・職業的自立に関する 指導等に取り組むこと、また、そのための体制を整えることが必要となっています。

その改正趣旨として学生の就職におけるミスマッチなどの社会的背景が大きく影響しており、中央教育審議会でも職業教育や労働観の確立を目指した教育の取り組みが議論され、キャリア教育の導入が謳われることとなった。こうした背景を踏まえての通知である。

ここで大学の役割とは何かを改めて考えておきたい。大学とはどんなところか、何を学ぶと ころかまず学校教育法を見てみたい。

- 第83条 大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。
  - 2 大学は、その目的を実現するための教育研究を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。

では、一般的にはどのようにとられられているだろうか。「大学とは何か」「大学で何を学ぶか」「大学生とは」といったタイトルの本は沢山あるが、その中のいくつかを取り上げてみたい。浅羽通明『大学で何を学ぶか』(1996)では「大学で何を学ぶ」のかを突き詰めていくと就職の話に行き着くと述べている。

この本は「大学で何を学ぶか」というタイトルなのに、なんだか就職の話ばかりだとみな思うだろう。でも、大学へ入ったきみについて、ノストラダムスなどよりはるかに確実に予言できるのは、就職しない生き方を自力で見つけないかぎり、就職シーズンが死神のように確実に、きみの学生時代を終わらせようと訪れるという未来だけなのだ。

この未来に対して抱く漠然とした不安をそのままにしておくと、妄想が不安を異常に増幅したり、潜在意識にこもった不安が心身を圧迫したりして、健康によろしくない。そうならないためには、不安の正体を思い切って直視して、まず過剰な妄想の霧をはらし、いまから対処できる何かあれば、それを決行するしかない。 (28)

飯田史彦『大学で何をどう学ぶか』(2001)では次のようにある。

大学とは、「自己の本質を発見し、自己を広げたり深めたりすることによって、自己の価値と可能性を高める成長のための機会」である。

すなわち、大学における学生生活は、「試練と悦楽が織り成す万華鏡」であり、その意味 おいて、まさに「人生の縮図」なのである。 (29)

大学生活が「人生の縮図」であるという表現は極めて興味深い。溝上慎一『大学生の学び・入門』 (2006)では大学での学びについて以下のように述べている。

「たしかに大学は勉強だけをするところではないが、勉強をしないでいいところでもない。 大学はまずもって勉強をするところだ」そう返す。私は勉強を"work"—英語では勉強することを work ともいうではないか!—、すなわち、誰にとっても基本的な日常の仕事だと見なしている。この言に学生、社会人の別はない。これだけ新しい考え方や知識、技術が生み出される時代なのだ。生涯学習とまさによくいったもので、人は生涯にわたって勉強していかなければならないのである。 (30)

また、大学での勉強は将来どのように役立つのかについては次のように述べている。

大学が「問題を発見する力」「行動力・実行力」「つねに新しい知識・経験・学力を身につけようとする力」「論理的に考えられる力」などの抽象的な高次能力を身につけたり、生涯にわたって勉強していく学習習慣を身につけたりする場だ (31)

ここ数年の社会的な意味合いから大学を捉えた川村邦光「大学に教養はあるか」(2009) はかなり はっきりと大学を捉えている。

"大学はいい就職のためにある"というのが、今日ではかなり一般化した物言いとなっていよう。大学は教育機関の最終点であるとともに "社会"に出る通過点にすぎないというわけである。そこで "社会"に出るための実学が要請されることにもなる。決して教養ではない。それが政府、また親たちの求めるものである。学生はほとんど考えもなく、それを当然のごとく思っている、あるいは振り回されている。 (32)

ここ数年の経済的な社会情勢等を見ると学生や親から見れば「就職できる大学はいい大学」といった評価につながっていることも見逃せない。大学がなすべき使命とは別に、現実的な周囲からの強い要望も無視できないということだ。しかし、大学の最も重要なことは価値観を築いていくことではないかと考えている。加藤諦三『大学で何を学ぶか』(2009)でも次のようにある。

大学は偏見から脱け出すところである。 (略)

価値観の向きを変えるのは、それが一時的なことにせよ、なかなかできることではない。それは自分の立っている基礎をぐらつかせるになるからである。ところが皮肉なことに、この価値を自分自身の中で変更させることがむずかしければむずかしいほど、その人間自身はかえって変更が必要な人間だと言わざるをえない。(33)

加藤は『大学で何を学ぶか〜自分を発見するキャンパス・ライフ』(1979)をすでに発表し、その後加筆して 2009 年にも出版したのである。

さて、大学と就職を直結して考える見方は、ここ数年特に強まったと思われる。その中でキーワードとなるのは就業力である。学生のうちに身に付けておくべきもの、すなわち「基礎力」の上に就業力をアップさせることなる。主な「基礎力の類似概念」としては、以下のようなものがある。

- (1) 社会人基礎力(経済産業省)
- (2) コンピテンシー (米国国務省他)
- (3) 学士力(文部科学省)
- (4) 職業的発達にかかわる諸能力(文部科学省)
- (5) キーコンピテンス (OECD)
- (6) 人間力(内閣府)<sup>(34)</sup>

最近の傾向としてはキャリア教育という用語に統合され各大学でも様々な形態で実施されている。 設置基準の改定はまさにこうした背景がまさに反映されていることになる。

設置基準の改定を受け、本学では教養教育検討委員会(キャリア教育・教養教育検討委員会)、 教務部委員会を中心に、学長、学部長等と検討会を重ねることとなった。

2010年8月4日に教務部委員会内の教養教育検討委員会(12月11日にキャリア教育・教養教育検討委員会に改称)にて「キャリア教育の在り方について」「教育課程の変更について」が議事として取り上げられた。

- 1 キャリア教育の位置付けを明確化。これに伴い、現状の科目においてキャリア教育に直 結する科目のシラバスには「キャリア教育」と明記すること。
- 2 就職部、学部長と連携をはかり、教科化しないまでも就職等のガイダンスの時間割上の設定について検討すること。
- 3 2012 年度を目途に教育課程の変更模索し、遅くても 2013 年度に導入すること。基礎科目において「キャリア・デザイン」新科目を設置し、キャリア教育の推進を図ること。
- 4 現在の資格の見直しや教職課程への支援について検討すること。

ここでは新しい教育課程案なども示され、委員間(委員長:佐々木隆教授、青木雅幸准教授、金助教、柴田助教)で意見交換が持たれた。その後8月12日には学長、学部長、教務部長で教育課程の見直しの検討会が開催される予定であったが、予定が早まり、8月6日に法人本部で「教育課程の改革について」が検討された。ここで整理されたことが10月2日の教務部委員会に報告さ

れた。教育課程の変更に伴い、現実的に学生のニーズに合わせること、科目内容の現実的対応のため、教職課程の情報科の廃止、上級情報処理士の廃止について意見が出たことが報告され、今後の教育課程の内容により情報の理論的な内容よりもアプリ等の活用へ特化した授業内容への変更が支持された。さらに12月11日の本学キャリア教育・教養教育検討委員会で以下のことが確認された。

- 1 シラバスの右上にキャリア教育奨励科目を明示
- 2 水曜日2時間目に学部1・2年生にそれぞれオープン・ホームルームを設ける。ここでは 初学者講習・就業力養成講座を組み入れ、時間割の中に必修科目の後に配置する。教科外と する。

その後、科目の名称等の検討などを経て、教育課程の変更について柴田教務副部長を中心に準備がなされ、2011 年 11 月 5 日のキャリア教育・教養教育検討会でその状況にについて報告があった。現在、構想開発研究所のコンサルを受けながら基本コンセプトの確認中ということで、特に情報系の科目の位置付けが問題となっていることが報告された。以降は、配当年次や設置の趣旨等との整合性などの最終確認、履修方法、履修コースなどの確認を経て、最終的には 2012 年 3 月 8 日の教務部委員会に新教育課程を導入する学則変更の案が示され、教職課程の情報科と上級情報処理士の廃止する案をまとめた。その後学則変更案は 3 月 13 日の教授会にて承認を得た。これにより 2013 年 4 月から新しい教育課程でのスタートが決定した。その後、3 月 16 日に全国大学実務教育協会より「実践キャリア実務士」という新しい資格の導入の知らせが届き、今後検討に入ることとなった。

学長は大学設置基準の改正を強く意識して、新教育課程を導入する前の 2011 年 4 月よりオープン・ホームルームを開催し、初学者講習・就業力養成講座を組み入れることを提案し、教務部にて時間割編成を工夫し、水曜日 2 時間目にこの時間を設定した。教科外の取り扱いであるがキャリア教育の一環としてスタートした。このことについては 2011 年 4 月 1 日の教授会でも審議され、了承された。この取り組みを本学として「インテリジェンス・レッスン」と命名した。ままた、これに伴いオープン・ホームルームについてもキャリア講習という名に改め、その内容を明確にした。

本学のキャリア教育に関する取り組みについては、旧教育課程の「基礎科目」の中に「現代社会とビジネス」「現代企業と職業」「ボランティア」を配置してきた。大学設置基準等の改正を踏まえ、2013年度より教育課程を変更し、「基礎科目」に「キャリア・デザイン $1\sim6$ 」( $1\sim3$ 年次)を必修科目として配置するが、2011年及び 2012年の $1\cdot2$ 年生に対するキャリア教育をどうするかといった問題がある。1年次は初学者講習的内容を含め、人生をどう過ごすか、就業意識、労働意識などの養成を図る予定である。2年次も共通して行う予定である。

2011 年度と 2012 年度には単位化はしないが、キャリア講習( $1 \sim 3$  年生)を設置し水曜日に実施した。その内容は新教育課程の「キャリア・デザイン $1 \sim 6$ 」に反映されることになる。また、様々な分野の講演会なども開催し、学生のライフ・デザインを描くのに役立った。この講演を「インテリジェンス・レッスン」とした。なお、2013 年度は 1 年生から新教育課程により「キャリア・デザイン 1」(1 年前期)、「キャリア・デザイン 2」(1 年後期)を導入するが、2 年生に

ついては 2013 年度も「インテリジェンス・レッスン」を実施し、新教育課程までの移行措置となる。2011 年度は実社会で活躍されている様々な分野の方々の話の中から働く中で学びとったことを、これから大学生として学生学んでほしいことをなどを語って戴いた。2012 年度はこうした外部講師の講演はもちろんであるが、ライフデザインに必要な考え方などを講義、あるいは演習形式の内容を取り入れ、新教育課程への移行的内容のものへとシフトした。旧教育課程にも配置していた実習系の科目、インターンシップ I、インターンシップ I、ボランティア I、ボランティア I 、ボランティア I 、

また、学長はキャリア教育の推進の側面的な支援として、ipad の無償貸与を推進することとなった。これに伴い 2010 年度内に学内の無線ランが整備され、2011 年度の新入生より ipad の無償貸与が始まった。無償貸与のモデルは以下の通りである。

2011 年度生 ipad 2 wifi モデル 2012 年度生 ipad 3 wifi モデル 2013 年度生 ipad 3 wifi モデル

これに伴い学内のメールも gmail を採用することになり、ipad との同期することで利便性が図れることとなった。当初は SNS の活用などが期待されたが、デジタルコンテンツの活用は意図していたものとは違った発展を見せているが、教員側の意識にも大きな変化が生じた。以上が、2013年度のキャリア教育を意識した新教育課程の導入の背景である。

#### 2011年度のインテリジェンス・レッスン (本学HPより抜粋)

#### 第1回 2011年 4月13日(水)

舛添要一(参議院議員、新党改革代表、元東京大学教養学部助教授)

特別講義「世界の中の日本」

「朝まで生テレビ」「サンデープロジェクト」などに出演して論理的でかつ先鋭的な討論スタイルで一世を風靡した。このため、湾岸戦争、リクルート事件、オウム真理教事件など国内外の政治 経済から広く文化、社会問題まで論じる知的タレントの代表格となる。

2001年の参院選挙では、比例区で 158万 8262 票を獲得してトップ当選を果たす。2007年には 安倍晋三内閣で厚生労働大臣となり、年金問題に取り組み、国民から高い評価を受ける。福田内閣、麻生内閣においても厚生労働大臣を歴任した。

現在でも首相になって欲しい人物のアンケートでは常に上位にランクされている。

また、7年に渡る実母の遠距離介護について書いた『母に襁褓をあてるとき』がベストセラーとなる。

#### 【講義内容ダイジェスト】

外国語習得の必要性/日本は江戸時代はオランダに学び、明治維新後にはフランスやドイツに学び、第2次世界大戦後はアメリカに学んだ。そして、その文化を取り入れながら独立を守り、発展してきたんです。その時に大切だったのは語学です。語学を習得することで知識を得てきた。現在、世界で一番勢いのある国は中国です。ですから、これからは中国語を学んでほしいですね。読書で人間形成をしよう/読書することが大学生として学び、そして社会人となっていくみなさんには大切ですね。特に古典を読んでください。お奨めするのはシェークスピア、夏目漱石、ギリシャ悲劇です。シェークスピアは人間の本質を書き著しているんです。人間のなんたるかを知るには最高の教材です。ギリシャ悲劇も人間関係を知るにはもってこいです。どちらも翻訳本があるので、気軽に読めるはずです。また、日本文学なら夏目漱石が人間研究には最適でしょう。そして本を読む時に読書ノートを付けてほしんです。読んだ時にもメモをすれば心に残りますが、それを何年か経って見直すのも役立つものです。

外向きになろう/震災があったり、経済が厳しくなって、内向きになっていく人が多くなっています。でも、学生時代はできるだけ外の世界に目を向け、できれば短期間でもいいから海外に行ってください。得るものは多いはずです。

#### 第2回 2011年 5月18日(水)

武田美保(女子シンクロナイズドスイミング元日本代表 オリンピックメダリスト) 特別講義「夢を追いかけて」

5歳から水泳を始め、7歳でシンクロナイズドスイミングに転向。13歳で生涯の師、井村雅代・現シンクロナイズドスイミング中国代表監督に出会う。17歳で日本代表に選出。以後、日本のシンクロナイズドスイミングのエースとしてアトランタ、シドニー、アテネの3つのオリンピックで、銀・銅・合わせて五つのメダルを獲得。現在はシンクロナイズドスイミングでキッズの指導などに携わるほか、ピラティスインストラクターとしても活動する。夫は鈴木英敬三重県知事。

#### 【講義内容ダイジェスト】

限界を突破/私は5歳から水泳を始めましたが、まったく目立たない子でした。7歳で出会ったシンクロが私の人生を変えてくれたのです。でも、そのきっかけは些細なものでした。練習の初日に行った練習でコーチに「美保ちゃんが一番できてたね」ってほめられたんです。そこで私は「シンクロ、好きやー」って、のめり込んでいったのです。そして大胆にも好きになったシンクロでオリンピックに出るという目標を立てたのです。次の試合で勝つには誰と誰を練習で追い抜けばいいのか、なんて考えて綿密に、練習に打ち込みました。好きだからこそ、研究もできるし、限界も超えられる。みなさんも好きなことを見つけて、あきらめずに夢を追いかけてください。怒られているうちが花/13歳から本格的に井村雅代コーチに指導していただくことになりました。井村先生は当時から有名なコーチで、憧れの存在でもありました。でも、怖い。めちゃめちゃ怖い。しかも厳しい! その厳しい指導に音をあげ、母親に愚痴を漏らしたのです。すると母は「怒られるうちが華」というではありませんか。しかも母はその言葉を心から言っていると知ったのです。見込みのない人には誰も起こってくれません。皆さんも「怒られるうちが華」と思って、めげずに、いろいろなことに取り組んでください。

#### 第3回 2011年 6月1日(水)

相原茂さん、北川えり、泉京鹿さん

相原茂さん/中国語コミュニケーション協会代表 TECC (Test of Communicative Chainese)を創始 元お茶の水大学教授 NHK教育「中国語会話」元講師

東京教育大学修士課程修了。中国語学専攻。明治大学やお茶の水女子大学で教鞭をとった、日本を代表する中国語教育者。中国語に関する著書は多数に渡る。また、お笑いをこよなく愛し、「中国語会話」でもユーモアあふれるレッスンを披露した。

北川えりさん/タレント 2003年ANA中国観光親善大使 NHK教育「中国語会話」元アシスタント

「中国語会話」相原さんと出会い、中国語に魅了され、北京へ短期の語学留学をするなど、中国 に傾倒していく。

#### 泉京鹿さん/翻訳家

1994年から北京大学に留学、卒業後は日系広告代理店勤務などを経て、現在、人気翻訳家として活躍。 中国の学生や若い女性に絶大なファン層を持つ作家"アニー・ベイビー"の小説「さよなら、ビビアン」や話題の書、「兄弟(上下)」などを翻訳。

特別講義「中国語を学んで拓ける世界」

#### 【講義内容ダイジェスト】

中国語は楽しい/世界の4分の1近くの人が話す言語が中国語です。しかも中国語で使われる文字は漢字を簡略化した簡体字です。ですから、日本人は、非漢字圏の人たちよりもずっと簡単に中国語を学べるのです。だから、怖がらずにチャレンジしてください。でも、同じ漢字を使っても意味の異なるものもあるので、要注意。中国人が銭湯ののれんにある「湯」の文字を見るとスープを売っている店だと思ってしまいます。でも、そんな違いも中国語を学ぶ楽しみの一つなの

です(相原さん)。

中国人と日本人の違い/「実証する」中国と「信用する」日本。ここに文化的な大きな違いがあります。中国人からすると、自分が作った履歴書を提出することなど、何の意味もありません。誰もその履歴書が正しいと証明してくれないからです。でも、日本人はほとんどの場合、本人が書いた履歴書を信じています。こんなことを念頭に置いていると、日本と中国の違いが分かり、中国の人たちと付き合っていくためのヒントになります(相原さん)。

いろんな顔を持つ国/中国へ行くのが大好きなんですが、その大きな理由は訪れる度に違った面がみられるという点です。もう何度も行っていますが、その都度、新鮮な発見をします。中国語を身につければ、もっと違った面を見つけられるかもしれません。だから皆さんも中国語にチャレンジしてください(北川さん)

まだまだ市場がある/実は中国では日本の小説やマンガ、テレビが多く見られています。でも、そのマーケットを上手に利用している人はあまり見かけません。また、中国の小説には面白いものがたくさんあるのですが、それを紹介する人も日本にはあまり多くありません。学生の皆さんが一流になるチャンスは中国や中国語を学ぶことでたくさん訪れるはずです。同業者が増えても構いません。皆さん、トライしてみてください(泉京鹿さん)。

#### 第4回 2011年 6月8日(水)

326 (ミツル・ナカムラミノル) (イラストレーター)

特別講義「信じた道を歩いていく」

佐賀県出身。幼稚園時代からイラストを描き始める。九州の若者に圧倒的支持を集め、地元NH Kが 1997 年に彼のドキュメンタリーを制作。オンエアと同時に時代を席巻する。イラスト、詩、小説、絵本、音楽ジャケットデザイン、パッケージデザイン、作詞、CD 出版、音楽プロデュース、ゲームヴィジュアルのプロデューサー、時にキャスターなどの顔を持つスパーマルチアーティスト。こころのコミュニケーションをあらゆる表現で体現している。

#### 【講義内容ダイジェスト】

好きなことは仕事にしよう/よく大人は「好きなことを仕事にしたらつまらない」なんて言います。でも、僕はそれは嘘だと思っているんです。だって、好きなことだったら、無理難題を言われても、何とかしようって思えるじゃないですか。それに仕事だったら、好きなことをずっとやっていても誰からも文句を言われない。だから、好きなことをとことん突き詰めてください。

「弱」に隠された意味/弱いっていう字を見てほしんです。よく見ると下の方に「羽」があるでしょ。今は弱いかもしれないけれど、でも実は弱いってことはダメなことじゃなく、羽ばたける翼をもっているっていうことなんです。だから弱い自分に負けちゃうんじゃなく、飛び立てる力を持っているんだって考えてみましょう。弱虫にだって羽は生えてるんだ!

#### 第5回 2011年 6月15日(水)

LylaLane (ミュージシャン)

特別講義「あきらめない!それが一番」

→ 学生時代、そして卒業後のライフデザインのための講義。

#### 第6回 2011年 6月22日(水)

澤口俊之 (脳科学者)

特別講義「人間性知能HQを育てる」

→ 自分を動かしているもの、そこには必ず要因となるものがある。

#### 第7回 2011年 6月29日(水)

加藤健二郎(戦場ジャーナリスト、バグバイパー)

特別講義「震災後に生きる道」

→ 机上ではわからないことも現地に行き、自分の目で見、自分の耳で聞くことに大きな意味がある。体験してこそ感じられることがある。

#### 第8回 2011年 7月20日(水)

小熊Q太郎(占い師)

特別講義「自分の運命を切り拓く法」

→ 自分を動かすもの。それは何か。確信が持てなくなった時、人は何に頼るのか。

#### 第9回 2011年 9月28日(水)

山口揚平(企業コンサルタント)

特別講義「好きなことを職業にするためのリテラシー」

→ 職業とは何か。自分がやりたいことは職業になるのか。

#### 第10回 2011年10月 5日(水)

鎌田真由美(演出家)

特別講義「3.11大震災を乗り越えて」

→ 心が萎えた時、一体何が人を動かすのだろうか。

#### 第11回 2011年11月 2日(水)

木戸寛孝(国際NGO世界連邦運動協会常任理事)

特別講義「スティーブ・ジョブズからの遺言」

→ デジタル・デバイスのカリスマ、ジョブズが言い残したことは果たして何であったか。

#### 第12回 2011年11月 9日(水)

荻原次晴 (元冬季五輪・本代表、スポーツキャスター)

特別講義「自分の守るべきベースをつくれ」

→ 何かを成し遂げるには自分に決めたルールを作らなければ達成はできない。それは何か?

#### 第13回 2011年11月16日(水)

木戸寛孝(国際NGO世界連邦運動協会常任理事)

特別講義「リーダーに求められる革新的世界観」

→ リーダーとは何か。刻々と変化するこの時代にあって、何が必要なのか?

#### 第14回 2011年11月30日(水)

江本孟紀 (元プロ野球選手、野球解説者) 特別講義「念ずれば花開く、という精神」

→ やりたいことはなかなか実現しない。そんなジレンマは誰もが持っている。ではそこからど うするか。

#### 第15回 2012年 1月18日 (水)

東国原英夫 (元宮崎県知事)

特別講義「逆境を笑えば折れないこころをつくる東国原流発想法

→ これまでの自分の体験がどう自分を支えてくれるか。ピンチの時こそ、その人の真価が問われる。

#### 2012年度のインテリジェンス・レッスン

#### 2012年 4月25日(水) 鈴木映衣子・高知利香(インテリジェンス・レッスン担当)

ワーク①「いいとこさがし」

社会に出たときに必須となる「自分を客観視する能力」を養うため、5人から6人程度の男女混成グループを作り、お互いの「いいところ」を記入していく。他人から見た自分の印象を意識させるとともに、序盤で長所を指摘し合うことで心理的な距離を近づけ、積極的な参加を促す狙い。

#### ワーク②「クルーザー」

あるストーリーを聞かせ、その登場人物を「好き」「嫌い」で順位付けをさせ(正解はない)、その後グループで話し合って「グループとしての意見」を出させる。学生は直感的な「好き」「嫌い」で物事を判断しがちである。好き嫌いがあることは仕方ないとして、その理由を考察するとともに、その判断基準となっている「自分が大切にしている価値観」に気づかせることが目的。また、討論を通して人との意見のすりあわせ方を学ぶとともに、様々な価値観を知ることで「嫌いと感じるもの」「価値観の違う人」とのつきあい方を考えさせる。

#### 2012年 5月 2日(水) 鈴木映衣子・高知利香(インテリジェンス・レッスン担当)

「お金のはなし・社会のしくみ」

学生と社会人のちがい、お金を稼ぐとはどういうことか?「お金のため」だけに働くのは虚しいけれど、生きて行くためには決して無視することができない「お金」について考える。人が一生で必要なお金はどれくらいだろうか?結婚したら、子供ができたら・・・自分が漠然と考える将来像を実現するためにはどのくらいかかるのだろうか?そしてそのためにはどんな風に働けばいいのだろうか?不況の世の中だけに、漠然とした理想に現実味を持たせ、働いて生きて行くことへの意識づけを行う。

#### ワーク「価値観」

(目的)「お金」「愛情」「自己実現」といった、どれも人生には大切な要素に、あえて「大事だと思う順番」に順位付けをさせ、その理由を書かせる。前回与えた「価値観」に関する気づきから1歩進んで、自分の価値観を形成する「理由」を考えさせる狙い。

**2012年 5月 9日(水) 鈴木映衣子・髙知利香(インテリジェンス・レッスン担当)** ワーク「おもしろレジャーランド」

(目的) チームでゲーム性の強いワークを行い、チームワークを醸成するとともに、チーム内での色々な役割について考える。5~6人の男女混成グループを作り、ひとりひとりに別々のヒントを持たせてこれを統合することで問題の答えを導くもの。

2012年 5月16日 (水) 福原正大 Institution for a Global Society 社長)

特別講義「クリティカルシンキング(自分で考えられる力)の 大切さ」

2012年 5月30日(水) 竹村真紀子 (International Women's Club Japan 代表)

特別講義「自分とは違う考えの人たちと向き合うことから、ど こでも力を発揮できる力を身につける」

2012年 6月13日(水) 鬼丸昌也(テラ・ルネッサンス代表)

特別講義「こうして僕は世界を変えるために一歩を踏み出した」

2012年 6月27日(水) **宮本倫明(社団法人 日本イベント産業振興協会 理事兼アドバ** イザー、日本イベント学会理事)

特別講義「幸せな仕事を選ぶための秘訣」

2012年 7月11日(水) 木戸寛孝(世界連邦21世紀フォーラム・理事長)

特別授業「明治維新から学ぶ平成維新」

2012年10月 3日(水) 鈴木映衣子・高知利香(インテリジェンス・レッスン担当)

ワーク「レヌカの学び」

ネパール人のレヌカさんが、実際にネパールで暮らしていた 時と日本に滞在していた時の行動や考え方の変化をもとに自 分たちとの価値観の違いを想像させ、グループ討論を行う。 自分たちとは異なる文化に生きる人のことを想像し、多様性 や共感することを学ぶとともに、先入観やイメージの影響を 知る。異文化理解の本質は自分の中にあることを実感させる。

2012年10月10日(水) 竹村真紀子 (International Women's Club 代表理事)

特別講義「海外に出るということ」

2012年11月 7日(水) 鈴木映衣子・高知利香(インテリジェンス・レッスン担当)

ワーク「リアル人生ゲーム」

すごろく形式のゲームをグループで行い、最後に振り返る。 社会に出たらおこるであろう人生の出来事、様々な選択肢を ゲームで体験することで、自分がどのような価値観を基準に 物事を決定しているかを分析する。

# 2012年11月21日 (水) 鈴木映衣子・高知利香 (インテリジェンス・レッスン担当) ワーク「私は・・・」

就職活動において必須とされる自己分析の、初級編。子供の 頃、小学生の時、中学生の時、どんな子だったか?人から 何と言われたか?などを書き出し、まとめる。附属高校出 身の学生は友人に聞くなど、できるだけ多くの情報を集め させる。また、同級生と「どんな仕事が向いているか」等 を指摘し合う。最後に、ここまで集めた情報を総合し「自 分」という人間の人物像を作り上げる。

## **2012年12月 5日(水) 鈴木映衣子・高知利香(インテリジェンス・レッスン担当)** ワーク「K 先生のデートプラン」

相手の立場を想像し、企画・調査を行うといったビジネスでは 基本的な力を醸成する。同一の条件を提示し、グループ分け し、グループごとに検討させ、異なった意見をどうやってグ ループとして1つの意見としてまとめ、プランとしてまとめ させる。

# **2012年12月12日(水) 鈴木映衣子・高知利香(インテリジェンス・レッスン担当)** ワーク「K 先生のデートプラン」発表 自由な方法で、聞く人に訴求することを目標に発表を行う。

### 2012年 1月23日(水) 後藤浩之(株式会社ライフアドバンテージ代表取締役) 特別講義「自分を知り、人を知る」

\*ワークはおもに問題解決能力の育成とグループワークが中心となった。キャリア教育ではスキルアップと同時に周囲と連携・協力して行うグループワークが必須である。

#### 第6章 本学の新教育課程について

2013年度より新教育課程が実施されるが、これに伴い本学の「養成する人材像」に一部改定が行われた。以下の5点のうち第1点目に韓国語が追加された。

- ① 国際語である英語の能力、プレゼンテーション、ビジネス、インターネット等の応用力 を習得し、仏語、中国語、韓国語といった語学能力の幅を広げること。
- ② 文化や国際社会を理解すること。
- ③ 自国文化や歴史、社会を理解すること。
- ④ 乳幼児や高齢者等を理解すること。
- ⑤ ボランティアやインターンシップ、海外研修等の「行動・体験」の領域を重視すること。

韓国語を新たに設置した背景には、本学の海外提携大学として韓国の又石大学との交流があり、 交換留学なども実施している背景があること、しかし、交流するにあたり、これまで「韓国文化 事情」という授業科目はあったものの語学科目として韓国語がなかったことが課題たして残って いた。これまでは夏期休暇期間中の「ステップアップ講座」として 2004 年以降、スペイン語と 韓国語を取り上げてきたが、今回の新教育課程において卒業要件科目として韓国語の導入が決まった。

本学では上記の養成する人材像を実現するため、履修モデルコースについても以下のように改めることとなった。

新履修モデル	旧履修モデル
国際コミュニケーション・コース	異文化理解コース
ビジネスコミュニケーション・コース	ビジネス理解コース
心理コミュニケーション・コース	人間理解コース

大きな違いは「理解」から「コミュニケーション」への発展である。発展の状況は以下の通りとなる。

「国際コミュニケーション・コース」については異文化理解よりも国際語である英語といった語学を重視する方向へ考え方をシフトしたこと。これに伴い学内的にも TOEIC 等を英語科全体で取り組むこととなった。本学では英語の担当教員はすべて専任教員であるため、意思統一も図りやすく、これにより留学などのさらなる促進、就職支援としての英語力の増強などを図ることなる。

「ビジネスコミュニケーション・コース」については、ビジネス系の授業科目を新たに設置するなど、学生のニーズに応えると共に、キャリア教育の一環としての役割も担うものである。

「心理コミュニケーション・コース」は教職課程だけに設置していた科目を卒業要件科目としても設置することでより多くの学生が履修できる工夫をした。これには本学に視察のあった中央教育審議会の教職課程の視察のおり、教職課程履修者を増やすような学内的な工夫を求められたこともあるが、学生より「心理学をもっと勉強したい」という声が多かったことが大きな理由で

ある。前述の「新しい時代における教養教育の在り方について(答申)」(2001)を踏まえている ことは言うまでもない。

なお、大きな科目構成は以下のようになった。

新教育課程	旧教育課程
基礎科目	基礎科目
言語コミュニケーション科目	言語コミュニケーション科目
デジタルコミュニケーション科目	コンピュータコミュニケーション科目
人間コミュニケーション理解関連科目	人間理解関連科目
日本理解関連科目	日本理解関連科目
国際事情理解関連科目	国際情勢理解関連科目
	地域事情理解関連科目
国際コミュニケーション実習	国際コミュニケーション実習
国際コミュニケーション関連ゼミ	国際コミュニケーション関連ゼミ

科目群としての大きな変更は国際情勢的な内容を大幅に少なくしたことから、旧教育課程の「国際情勢理解関連科目」と「地域事情理解関連科目」を統合したことだ。各科目も改定の内容は以下の通りである。

#### 基礎科目

- ・隣接する科目の統廃合を行った。
- ・キャリア教育重視観点から1年~3年のそれぞれ前期・後期に必修科目として「キャリア・デザイン」を配置した。これによりセメスター制のため、キャリア・デザイン1~6を配置することとなり、入学後から3年生までは卒業要件科目の必修として配置した。また、就職部は3年生より就職ガイダンスを行いますので、キャリア教育、就職支援などが特に3年生になるとさらに授業科目内外において強化されることになり、大学設置基準の改正の趣旨にあったものとなる。

#### 言語コミュニケーション科目

- 一部の科目の廃止及び科目名称変更。
- ・新科目として「韓国語 I」「韓国語 II」を設置。今後、海外研修先として韓国も視野に入れる 必要性からその準備教育として韓国語を導入する。

#### デジタルコミュニケーション科目

・教職課程(情報科)と上級情報処理士の免許・資格の課程を廃止したため、理論的なものよりも操作重視、ソフトやアプリの活用に特化した授業への内容変更。

#### 人間コミュニケーション理解関連科目

一部の科目の廃止及び科目名称変更。

- ・学生からの要望等を取り入れ、心理学系、福祉系の科目を設置の趣旨や養成する人材像と整 合性のある範囲で新たに設置した。
- ・教職課程履修者への優遇を図るため、教職課程の「教職に関する科目」の一部を卒業要件科目に配置。

#### 日本理解関連科目

- 一部の科目の廃止及び科目名称変更。
- ・留学生への配慮と教職課程履修者への優遇を図るため、教職課程の「教職に関する科目」の 一部と日本語教員養成課程の一部の科目を卒業要件科目に配置。これによりこれまで5科目 構成であったものが、8科目構成となった。

#### 国際事情理解関連科目

- ・国際情勢系統の科目、文化事情の科目の統廃合を行った。
- ・国際経営、国際金融(金融論をの科目名称変更)を配置。

#### 国際コミュニケーション実習

・「国際ボランティア」の履修者が極端に少ないため、科目の廃止。国内における交流を目的と する「国際交流」を廃止。「日本の伝統文化」については今後の内容の流動性に対応するため、 内容を限定するカッコ付きを削除。

#### 国際コミュニケーション関連ゼミ

・履修上の簡便化、担当教の負担減のため、各演習を4単位ものを2単位へ。また、3年、4年の学生指導を考え、選択必修科目から必修科目へ科目の位置付を強化した。

旧課程では必修科目は16単位であったが、新教育課程では27単位となる。新教育課程の必修 科目は以下の通りである。

1年前期	キャリア・デザイン1	2 単位
	English Reading	2 単位
	Oral English	2 単位
1年後期	キャリア・デザイン2	2 単位
	English Writing	2 単位
	Advanced Oral English	2 単位
2年前期	キャリア・デザイン3	2 単位
2年後期	キャリア・デザイン4	2 単位
3年前期	キャリア・デザイン5	2 単位
	演習 I	2 単位
3年後期	キャリア・デザイン6	1 単位
	演習Ⅱ	2 単位

4年前期 演習Ⅲ 2単位

4年後期 演習IV 2単位 合計 2 7 単位

本学は開学以来学生指導にも力を入れているため、 $1 \cdot 2$ 年生はクラス担任及びキャリア・デザイン $1 \sim 4$ において指導し、 $3 \sim 4$ 年生はキャリア・デザイン $5 \sim 6$ 、演習  $I \sim IV$ (ゼミ)、就職部が学生指導に当たることになる。 $3 \sim 4$ 年生は就職活動などもあり、学生指導の終着点が卒業と卒業後の進路となれば、就職部との連携は無視できるものではない。本学は $1 \cdot 2$ 年生についてはクラス担任制度、 $3 \cdot 4$ 年生はゼミ担当教員がこの役割を果たすことになるため、学年を通して教科内外で学生指導をこれまで以上に行うこととなる。

この章の終りにあたり、「キャリア・デザイン1~6」のシラバスを掲載しておきたい。

_		T	
科目名	キャリア・デザイン1	職名	教授 兼任講師
71 11 21		教員名	高橋暢雄・鈴木映衣子・高知利香
授業形態	講義	単位数 (期間)	2単位(1年前期)
授業の到達 目標及びテ ーマ 授業概要	・自分の能力の現状を理解し、職業生活・社会生活を通じて自らの能力を高めるための方法論 や手法を学び、今後の人生観や自らの就業に必要な能力や現状把握を行う。さらに、今後の大 学生活においてキャリア・デザインに沿って過ごせるように、自己理解させることを目標とす る。 ・大学1年生として自らのキャリアを考え、能力開発する方向性を明らかにするための「自分 史」を振り返ること、キャリア・デザインの大枠として「職業」「キャリア」「就業」「社会 と個」について学び、今後の学生生活をキャリア・デザインの本格的スタートとして自覚して もらいたい。		
授業計画	連備学習:これまでの自分の記録を用意しておくこと。  1. キャリア教育の考え方  2. キャリア・デザインとは何か 自分史の振り返り  3. 自分史 これまでの自分の姿  4. 職業観と労働観  5. アルバイト・派遣・正職員  6. 社会の変化と労働意識  7. 就業に必要な能力  8. キャリアと能力開発 諸経験と資格・免許  9. 大学生に求められる社会基礎力  10. インターンシップとは何か  11. 就業体験から学ぶ就業力の現状(1) 本学のこれまでのインターンシップの実績  12. 就業体験から学ぶ就業力の現状(2) 就職活動と就業力  13. 就業体験から学ぶ就業力の現状(3) 企業から見た学生  14. 就業体験から学ぶ就業力の現状(4) 起業するとは  15. まとめ  (必要に応じて外部講師・ゲストスピーカーを招き、該当内容の講話を聴くこともある。講義であるが、演習的な要素を含む		
評価基準評価方法	原則出席は3分の2以上とし、授業ト50%のうち60%以上の評価を受		コメント・小レポート 50%と単位レポートる。(総合評価とする)
教科書参考書	必要に応じて教員作成のものを配布		

		well to	ht lee V to oth tee
科目名	キャリア・デザイン 2	職名	教授 兼任講師
		教員名	高橋暢雄・鈴木映衣子・高知利香
授業形態	講義	単位数 (期間)	2 単位(1 年後期)
授業の到達	観との関係や、労働上の意識の違い	いについて、自己の	持つことが多くなるが、労働形態と労働 経験をもとに分析する。さらに、周囲の な就業に至る経緯を聞くなどの活動を通
目標及びテ	して、労働観や就業への意識の背景を知ることを目標とする。		
ーマ	・キャリア・デザイン1を踏まえて、「自分史」を未来のものまで視野に入れ、「労働観」を中		
授業概要	心にしながら、アルバイト、派遣社員、契約社員、正社員(正職員)など、様々な労働形態を		
	知り、社会の仕組み中でどう位置付けられているかを学ぶ。また、法令や保険との関係につい		
	てもその概略を学ぶ。		
授業計画	本の機略を学ぶ。  準備学習:アルバイト経験の整理や労働形態についてインターネット等でよくリサーチしておくこと。  1. これまでの自分史の振り返り  2. これからの自分史を考えてみる  3. アルバイトの経験から得られるもの  4. アルバイトと正社員の違いは何か  5. アルバイトの果たす役割  6. アルバイトの実態  7. 派遣社員と契約社員の違いとその果たす役割  8. 様々な労働形態と就業体験(1)大学卒業後の経験談  9. 様々な労働形態と就業体験(2)職業って何  10. 様々な労働形態と就業体験(3)ITの活用方法  11. 様々な労働形態と就業体験(4)特技と技能をどう生かすか  12. 派遣社員と契約社員の実態  13. 労働形態の違いによる法令上の違い  14. 労働形態の違いによる保険上の違い  15. 将来の進路と労働観  (必要に応じて外部講師・ゲストスピーカーを招き、該当内容の講話を聴くこともある。講義であるが、演習的な要素を含む)  (オフィス・ディ:水曜日、時間については要相談。)		
評価基準評価方法	原則出席は3分の2以上とし、授業内における活動+コメント・小レポート50%と単位レポート50%のうち60%以上の評価を受けた者を単位認定する。(総合評価とする)		
教科書 参考書	必要に応じて教員作成のものを配布		

		well for	ht les V to attach
科目名	キャリア・デザイン3	職名	教授 兼任講師
		教員名	高橋暢雄・鈴木映衣子・高知利香
授業形態	講義	単位数 (期間)	2単位(2年前期)
			学生時代に学ぶべき知識、課題を知り、 ョン・スキルなど、将来企業及び組織の
授業の到達			用知識・予備知識)を修得することを目
目標及びテ	負として主さるための考えができ    標とする。		竹が峨。 1/1開が峨) を修行することを日
日保及いり		ラア 租件企業が	持つ社会的役割とその活動について、学
授業概要	生時代に学ぶべき知識、課題を学ぶ。特に企業の社会的役割と職業について、企業という組織		
	についての基礎知識を深める。個人の価値観と職業意識について、就職活動以前にその理解		
	を高める。		
	準備学習:就業のあり方や企業の形	態についてよくリー	サーチしておくこと。
	1. 社会における企業と職業につい	て(仕事をするこ	と、働くことの意味と意義)
	2. 企業の歴史的変遷と個人の職業観の変遷について		
	3. 資本主義と市場経済について		
	4. 企業のマネジメントと運営の仕組みについて		
	5. 企業の種類と形態		
	6. IT 導入後の企業形態		
	7. 現代企業における社員の役割と仕事(実務)について知る		
	8. インターンシップ制度について		
授業計画	9. 現代企業が求める人的ニーズについて		
	10. 一般のマナーとビジネス・マナー		
	11. ビジネス・コミュニケーションの基本		
	   12. クライシス(危機管理)コミュニケーションについて		
	   13. 自分を生かす仕事の選び方と職種		
	   14. 企業活動を通じて培う個人の価値観、人生観		
	15. まとめ		
	   (必要に応じて外部講師・ゲストス	ピーカーを招き、 <b>!</b>	該当内容の講話を聴くこともある。講義
	であるが、演習的な要素を含む)		
(オフィス・ディ:水曜日、時間については要相談。)			
評価基準			
評価方法			「る。(総合評価とする)
教科書参考書	必要に応じて教員作成のものを配布		

科目名       キャリア・デザイン4       教員名       高橋暢雄・鈴木映衣子・高知利香         授業形態       講義       単位数 (期間)       2単位 (2年後期)         ・大学生はアルバイトに就くまでの経過やアルバイトの労働を通して社会と関わることになる。大学3年生後半になると就業のために就職活動が始まるが、企業からの「求人」と大学の「求援業の到達」との関係を考察し、「求人」と「求職」のマッチング、就職活動までに修得しておくべきことを理解し、これに向けて取り組むことを目標とする。         ・キャリア・デザイン1~3を踏まえて就業に至るまでに必要なことを確認する。社会基礎力			min A	11.150 At 11 34 hT									
接業形態 講義 単位数 (期間) 2 単位 (2 年後期)  ・大学生はアルバイトに就くまでの経過やアルバイトの労働を通して社会と関わることになる。 大学 3 年生後半になると放棄のために就職活動が始まるが、企棄からの「求人」と大学の「求 職」との関係を考察し、「求人」と「求職」のマッチング、就職活動までに修得しておくべきこ 1 標及 び 学 とを理解し、これに向けて取り組むことを目標とする。 ・キャリア・デザインし、3 を踏まえて就業に至るまでに必要なことを確認する。社会基礎力 を発展させ、就職活動の仕組み、その取り組力や就職活動の実態を知ることで、大学 3 年生の過ごし方や現在の自己にとって何が必要なのかを確認するために、キャリア・デザインの主眼である自分史から自己理解の深め方を学ぶ。 「準備学習:自分の大学生としての記録等を常に更新し、そのデータを整理しておくこと。 1. 「職業」とは、「放業」とは何か 2. 「就職活動」とは 3. 就職活動の実態 大学と企業 4. 就職活動の実態 大学と企業 4. 就職活動の実態 大学と企業 4. 就職活動の実態 大学と企業 8. 自己アピールについて 9. 履歴書の持つ意味 8. 自己アピールについて 9. 履歴書から自己分析 12. 企業が求める人材とは 13. 就職活動と社会基礎力 14. 就職活動と社会基礎力 14. 就職活動の流れと大学生活 (大学就職部の役割) 15. まとめ (必要に応じて外部講師・ゲストスピーカーを招き、該当内容の講話を聴くこともある。講義であるが、演習的企業素を含む) (オフィス・ディ・水曜日、時間については要相談。)  評価基準 評価方法	科目名	キャリア・デザイン4	職名	教授 兼任講師									
・大学生はアルバイトに鋭くまでの経過やアルバイトの労働を通して社会と関わることになる。 大学3年生後半になると就業のために就職活動が対まるが、企業からの「求人」と大学の「求職」との関係を考算し、「求人」と「求職」のマッチング、就職活動までに修得しておくべきことを理解し、これに向けて取り組むことを目標とする。 ・キャリア・デザインして3を踏まえて放業に至るまでに必要なことを確認する。社会基礎力を発展させ、就職活動の仕組み、その取り組力や就職活動の実態を知ることで、大学3年生の過ごし方や現在の自己にとって何が必要なのかを確認するために、キャリア・デザインの主服である自分史から自己理解の深め方を学ぶ。 「常備学習:自分の大学生としての記録等を常に更新し、そのデータを整理しておくこと。 1.「職業」とは、「敢業」とは何か 2.「旅職活動」とは 3. 就職活動の実態 大学と企業 4. 就職活動の実態 本学の場合 5. エントリーシートの持つ意味 6. 基本的な情報機器利用の知識の確認 7. 履歴書の持つ意味 8. 自己アビールについて 9. 履歴書から自己分析 12. 企業が求める人材とは 13. 旅職活動と社会基礎力 14. 旅職活動の流れと大学生活(大学就職部の役割) 15. まとめ (必要に応じて外部講師・ゲストスピーカーを招き、該当内容の講話を聴くこともある。講義であるが、領習的な要素を含む) (オフィス・ディ・水曜1、時間については要相談。) 評価基準 評価基準 評価方法  原則出席は3分の2以上とし、授業内における活動十コメント・小レポート50%と単位レポート50%のうち60%以上の評価を受けた者を単位認定する。(総合評価とする)													
大学3年生後半になると就業のために就職活動が始まるが、企業からの「求人」と大学の「求 展業の到達 開」との関係を考察し、「求人」と「求職」のマッチング、就職活動までに修得しておくべきことを理解し、これに向けて取り組むことを目標とする。 ・キャリア・デザイン1~3を踏まえて就業に至るまでに必要なことを確認する。社会基礎力を発展させ、就職活動の仕組み、その取り組力や就職活動の実態を知ることで、大学3年生の過ごし方や現在の自己にとって何が必要なのかを確認するために、キャリア・デザインの主眼である自分史から自己理解の深め方を学ぶ。 準備学習:自分の大学生としての記録等を常に更新し、そのデータを整理しておくこと。 1.「職業」とは、「裁業」とは何か 2. 成職活動」とは 3. 就職活動の実態 大学と企業 4. 就職活動の実態 大学と企業 4. 就職活動の実態 大学と企業 6. 基本的な情線機器利用の知識の確認 7. 履歴書の持つ意味 6. 基本的な情線機器利用の知識の確認 7. 履歴書の持つ意味 8. 自己アビールについて 9. 履歴書の書き方 10. 履歴書から自己分析 12. 企業が求める人材とは 13. 就職活動と社会基礎力 14. 就職活動と社会基礎力 14. 就職活動の流れと大学生活(大学就職部の役割) 15. まとめ (必要に応じて外部講師・ゲストスビーカーを招き、該当内容の講話を聴くこともある。講義であるが、演習的な要素を含む) (オフィス・ディ:水曜日、時間については要相談。) 評価基準 評価基準 評価基準 評価基準 評価基準 評価方法 必要に応じて教員作成のものを配布	授業形態	講義	単位数(期間)	2単位(2年後期)									
接来の到達 職」との関係を考察し、「永人」と「求職」のマッチング、就職活動までに移得しておくべきこ 目標及びテーマ とを理解し、これに向けて取り組むことを目標とする。 ・キャリア・デザイン1~3を踏まえて就業に至るまでに必要なことを確認する。社会基礎力 を発展させ、就職活動の仕組み、その取り組力や欺職活動の実態を知ることで、大学3年生の 過ごし方や現在の自己にとって何が必要なのかを確認するために、キャリア・デザインの主眼である自分史から自己理解の深め力を学ぶ。 準備学習:自分の大学生としての記録等を常に更新し、そのデータを整理しておくこと。 1.「職業」とは、裁業」とは何か 2.「就職活動」とは 3. 散験活動の実態 大学と企業 4. 就験活動の実態 大学と企業 4. 就験活動の実態 大学と企業 6. 基本的な情報機器利用の知識の確認 7. 履歴書の持つ意味 6. 基本的な情報機器利用の知識の確認 7. 履歴書の持つ意味 8. 自己アピールについて 9. 履歴書の書き方 10. 履歴書作成 11. 履歴書から自己分析 12. 企業が求める人材とは 13. 就職活動と社会基礎力 14. 就職活動の流れと大学生活(大学就職部の役割) 15. まとめ (必要に応じて外部講師・ゲストスピーカーを招き、該当内容の講話を聴くこともある。講義であるが、演習的な要素を含む) (必要に応じて外部講師・ゲストスピーカーを招き、該当内容の講話を聴くこともあるが、演習的な要素を含む) (オフィス・ディ:木曜日、時間については要相談。) 評価基準 原則出席は3分の2以上とし、授業内における活動+コメント・小レポート50%と単位レポー 下50%のうち60%以上の評価を受けた者を単位認定する。(総合評価とする)		・大学生はアルバイトに就くまでの	経過やアルバイトの	D労働を通して社会と関わることになる。									
日標及びテーマ ・キャリア・デザイン1~3を踏まえて就業に至るまでに必要なことを確認する。社会基礎力 を発展させ、就職活動の仕組み、その取り組かや競職活動の実態を知ることで、大学3年生の 過ごし方や現在の自己にとって何が必要なのかを確認するために、キャリア・デザインの主服である自分史から自己理解の深め方を学ぶ。		大学3年生後半になると就業のため	に就職活動が始ま	るが、企業からの「求人」と大学の「求									
<ul> <li>・キャリア・デザイン1~3を踏まえて就業に至るまでに必要なことを確認する。社会基礎力を発展させ、就職活動の仕組み、その取り組方や就職活動の実態を知ることで、大学3年生の過ごし方や現在の自己にとって何が必要なのかを確認するために、キャリア・デザインの主眼である自分史から自己理解の深め方を学ぶ。</li> <li>準備学習:自分の大学生としての記録等を常に更新し、そのデータを整理しておくこと。         <ol> <li>「職業」とは、「就業」とは何か</li> <li>「就職活動の実態 大学と企業</li> <li>・ 糞職活動の実態 本学の場合</li> <li>・ エントリーシートの持つ意味</li> <li>6 基本的な情報機器利用の知識の確認</li> <li>7 履歴書の持つ意味</li> <li>8 自己アビールについて</li> <li>9 履歴書から自己分析</li> <li>12 企業が求める人材とは</li> <li>13 就職活動と社会基礎力</li> <li>14 就職活動の流れと大学生活(大学就職部の役割)</li> <li>15 まとめ (必要に応じて外部講師・ゲストスピーカーを招き、該当内容の講話を聴くこともある。講義であるが、演習的な要素を含む) (オフィス・ディ:水曜日、時間については要相談。)</li> </ol> </li> <li>評価基準 原則出席は3分の2以上とし、授業内における活動+コメント・小レボート50%と単位レボート50%のうち60%以上の評価を受けた者を単位認定する。(総合評価とする)</li> <li>数料書</li> </ul>	授業の到達	職」との関係を考察し、「求人」と	「求職」のマッチン	グ、就職活動までに修得しておくべきこ									
授業概要  を発展させ、就職活動の仕組み、その取り組方や就職活動の実態を知ることで、大学3年生の過ごし方や現在の自己にとって何が必要なのかを確認するために、キャリア・デザインの主眼である自分史から自己理解の深め方を学ぶ。  準備学習:自分の大学生としての記録等を常に更新し、そのデータを整理しておくこと。 1.「職業」とは、「就業」とは何か 2.「就職活動」とは 3. 就職活動の実態 大学と企業 4. 就職活動の実態 本学の場合 5. エントリーシートの持つ意味 6. 基本的な情報機器利用の知識の確認 7. 履歴書の持つ意味 8. 自己アピールについて 9. 履歴書の書き方 10. 履歴書作成 11. 履歴書から自己分析 12. 企業が求める人材とは 13. 就職活動と社会基礎力 14. 就職活動と社会基礎力 14. 就職活動の流れと大学生活(大学就職部の役割) 15. まとめ (必要に応じて外部講師・ゲストスピーカーを招き、該当内容の講話を聴くこともある。講義であるが、演習的な要素を含む) (オフィス・ディ:水曜日、時間については要相談。)  評価基準 評価方法  原則出席は3分の2以上とし、授業内における活動+コメント・小レポート50%と単位レポート50%のうち60%以上の評価を受けた者を単位認定する。(総合評価とする)	目標及びテ	とを理解し、これに向けて取り組むことを目標とする。											
過ごし方や現在の自己にとって何が必要なのかを確認するために、キャリア・デザインの主眼である自分史から自己理解の深め方を学ぶ。  準備学習:自分の大学生としての記録等を常に更新し、そのデータを整理しておくこと。 1.「職業」とは、「就業」とは何か 2.「就職活動」とは 3. 就職活動の実態 大学と企業 4. 就職活動の実態 本学の場合 5. エントリーシートの持つ意味 6. 基本的な情報機器利用の知識の確認 7. 履歴書の持つ意味 8. 自己アピールについて 9. 履歴書の書き方 10. 履歴書作成 11. 履歴書の自己分析 12. 企業が求める人材とは 13. 就職活動と社会基礎力 14. 就職活動と社会基礎力 14. 就職活動の流れと大学生活(大学就職部の役割) 15. まとめ (必要に応じて外部講師・ゲストスピーカーを招き、該当内容の講話を聴くこともある。講義であるが、演習的な要素を含む) (オフィヌ・ディ:水曜日、時間については要相談。)  評価基準 原則出席は3分の2以上とし、授業内における活動+コメント・小レポート50%と単位レボー 評価方法 ト 50%のうち60%以上の評価を受けた者を単位認定する。(総合評価とする)	ーマ	・キャリア・デザイン1~3を踏まえて就業に至るまでに必要なことを確認する。社会基礎力											
である自分史から自己理解の深め方を学ぶ。  準備学習:自分の大学生としての記録等を常に更新し、そのデータを整理しておくこと。  1.「職業」とは、「就業」とは何か  2.「就職活動」とは  3. 就職活動の実態 大学と企業  4. 就職活動の実態 本学の場合  5. エントリーシートの持つ意味  6. 基本的な情報機器利用の知識の確認  7. 履歴書の持つ意味  8. 自己アピールについて  9. 履歴書の書き方  10. 履歴書作成  11. 履歴書から自己分析  12. 企業が求める人材とは  13. 就職活動と社会基礎力  14. 就職活動と社会基礎力  14. 就職活動と社会基礎力  15. まとめ  (必要に応じて外部講師・ゲストスピーカーを招き、該当内容の講話を聴くこともある。講義であるが、演習的な要素を含む)  (オフィス・ディ:水曜日、時間については要相談。)  評価基準  原則出席は3分の2以上とし、授業内における活動+コメント・小レポート50%と単位レポート50%のうち60%以上の評価を受けた者を単位認定する。(総合評価とする)  教科書  必要に応じて教員作成のものを配布	授業概要	を発展させ、就職活動の仕組み、そ	を発展させ、就職活動の仕組み、その取り組方や就職活動の実態を知ることで、大学 3 年生の										
準備学習:自分の大学生としての記録等を常に更新し、そのデータを整理しておくこと。  1. 「職業」とは、「就業」とは何か  2. 「就職活動」とは  3. 就職活動の実態 大学と企業  4. 就職活動の実態 大学と企業  4. 就職活動の実態 本学の場合  5. エントリーシートの持つ意味  6. 基本的な情報機器利用の知識の確認  7. 履歴書の持つ意味  8. 自己アピールについて  9. 履歴書の書き方  10. 履歴書作成  11. 履歴書から自己分析  12. 企業が求める人材とは  13. 就職活動と社会基礎力  14. 就職活動の流れと大学生活(大学就職部の役割)  15. まとめ  (必要に応じて外部講師・ゲストスピーカーを招き、該当内容の講話を聴くこともある。講義であるが、演習的な要素を含む)  (オフィス・ディ:水曜日、時間については要相談。)  評価基準  評価基準  評価基準  評価方法  本要に応じて教員作成のものを配布		過ごし方や現在の自己にとって何が	必要なのかを確認	するために、キャリア・デザインの主眼									
1. 「職業」とは、「就業」とは何か 2. 「就職活動」とは 3. 就職活動の実態 大学と企業 4. 就職活動の実態 本学の場合 5. エントリーシートの持つ意味 6. 基本的な情報機器利用の知識の確認 7. 履歴書の持つ意味 8. 自己アピールについて 9. 履歴書の書き方 10. 履歴書から自己分析 12. 企業が求める人材とは 13. 就職活動と社会基礎力 14. 就職活動の流れと大学生活(大学就職部の役割) 15. まとめ (必要に応じて外部講師・ゲストスピーカーを招き、該当内容の講話を聴くこともある。講義であるが、演習的な要素を含む) (オフィス・ディ:水曜日、時間については要相談。)  評価基準 評価方法  原則出席は3分の2以上とし、授業内における活動+コメント・小レポート50%と単位レポー評価方法 ト 50%のうち60%以上の評価を受けた者を単位認定する。(総合評価とする)		である自分史から自己理解の深め方	を学ぶ。										
2. 「就職活動」とは 3. 就職活動の実態 大学と企業 4. 就職活動の実態 本学の場合 5. エントリーシートの持つ意味 6. 基本的な情報機器利用の知識の確認 7. 履歴書の持つ意味 8. 自己アピールについて 9. 履歴書の書き方 10. 履歴書から自己分析 12. 企業が求める人材とは 13. 就職活動と社会基礎力 14. 就職活動と社会基礎力 15. まとめ (必要に応じて外部講師・ゲストスピーカーを招き、該当内容の講話を聴くこともある。講義であるが、演習的な要素を含む) (オフィス・ディ:水曜日、時間については要相談。)  評価基準 評価方法  原則出席は3分の2以上とし、授業内における活動+コメント・小レポート50%と単位レポー 評価方法  を要に応じて教員作成のものを配布		▲ 準備学習:自分の大学生としての記	録等を常に更新し	 、そのデータを整理しておくこと。									
3. 就職活動の実態 大学と企業 4. 就職活動の実態 本学の場合 5. エントリーシートの持つ意味 6. 基本的な情報機器利用の知識の確認 7. 履歴書の持つ意味 8. 自己アピールについて 9. 履歴書の書き方 10. 履歴書作成 11. 履歴書から自己分析 12. 企業が求める人材とは 13. 就職活動と社会基礎力 14. 就職活動と社会基礎力 15. まとめ (必要に応じて外部講師・ゲストスピーカーを招き、該当内容の講話を聴くこともある。講義であるが、演習的な要素を含む) (オフィス・ディ:水曜日、時間については要相談。)  評価基準 評価方法  原則出席は3分の2以上とし、授業内における活動+コメント・小レポート50%と単位レポート50%のうち60%以上の評価を受けた者を単位認定する。(総合評価とする)		   1.「職業」とは、「就業」とは何か											
4. 就職活動の実態 本学の場合 5. エントリーシートの持つ意味 6. 基本的な情報機器利用の知識の確認 7. 履歴書の持つ意味 8. 自己アピールについて 9. 履歴書の書き方 10. 履歴書から自己分析 12. 企業が求める人材とは 13. 就職活動と社会基礎力 14. 就職活動と社会基礎力 15. まとめ (必要に応じて外部講師・ゲストスピーカーを招き、該当内容の講話を聴くこともある。講義であるが、演習的な要素を含む) (オフィス・ディ: 水曜日、時間については要相談。)  評価基準 評価方法 原則出席は3分の2以上とし、授業内における活動+コメント・小レポート50%と単位レポード 50%のうち60%以上の評価を受けた者を単位認定する。(総合評価とする)		2.「就職活動」とは											
5. エントリーシートの持つ意味 6. 基本的な情報機器利用の知識の確認 7. 履歴書の持つ意味 8. 自己アピールについて 9. 履歴書の書き方 10. 履歴書作成 11. 履歴書から自己分析 12. 企業が求める人材とは 13. 就職活動と社会基礎力 14. 就職活動と社会基礎力 15. まとめ (必要に応じて外部講師・ゲストスピーカーを招き、該当内容の講話を聴くこともある。講義であるが、演習的な要素を含む) (オフィス・ディ:水曜日、時間については要相談。)  評価基準 原則出席は3分の2以上とし、授業内における活動+コメント・小レポート50%と単位レポー 評価方法 ト50%のうち60%以上の評価を受けた者を単位認定する。(総合評価とする)		3. 就職活動の実態 大学と企業											
6. 基本的な情報機器利用の知識の確認 7. 履歴書の持つ意味 8. 自己アピールについて 9. 履歴書の書き方 10. 履歴書作成 11. 履歴書から自己分析 12. 企業が求める人材とは 13. 就職活動と社会基礎力 14. 就職活動の流れと大学生活(大学就職部の役割) 15. まとめ (必要に応じて外部講師・ゲストスピーカーを招き、該当内容の講話を聴くこともある。講義であるが、演習的な要素を含む) (オフィス・ディ:水曜日、時間については要相談。)  評価基準 評価方法 原則出席は3分の2以上とし、授業内における活動+コメント・小レボート50%と単位レポート50%のうち60%以上の評価を受けた者を単位認定する。(総合評価とする)		4. 就職活動の実態 本学の場合											
授業計画		5. エントリーシートの持つ意味											
授業計画   8. 自己アピールについて   9. 履歴書の書き方   10. 履歴書作成   11. 履歴書から自己分析   12. 企業が求める人材とは   13. 就職活動と社会基礎力   14. 就職活動の流れと大学生活 (大学就職部の役割)   15. まとめ (必要に応じて外部講師・ゲストスピーカーを招き、該当内容の講話を聴くこともある。講義であるが、演習的な要素を含む) (オフィス・ディ:水曜日、時間については要相談。)   原則出席は3分の2以上とし、授業内における活動+コメント・小レポート 50%と単位レポート 50%のうち 60%以上の評価を受けた者を単位認定する。(総合評価とする)   数科書   必要に応じて教員作成のものを配布		6. 基本的な情報機器利用の知識の確認											
授業計画   9. 履歴書の書き方   10. 履歴書作成   11. 履歴書から自己分析   12. 企業が求める人材とは   13. 就職活動と社会基礎力   14. 就職活動の流れと大学生活 (大学就職部の役割)   15. まとめ (必要に応じて外部講師・ゲストスピーカーを招き、該当内容の講話を聴くこともある。講義であるが、演習的な要素を含む) (オフィス・ディ:水曜日、時間については要相談。)   原則出席は3分の2以上とし、授業内における活動+コメント・小レポート 50%と単位レポート 50%のうち 60%以上の評価を受けた者を単位認定する。(総合評価とする)   教科書   必要に応じて教員作成のものを配布		7. 履歴書の持つ意味											
9. 履歴書の書き方 10. 履歴書作成 11. 履歴書から自己分析 12. 企業が求める人材とは 13. 就職活動と社会基礎力 14. 就職活動の流れと大学生活(大学就職部の役割) 15. まとめ (必要に応じて外部講師・ゲストスピーカーを招き、該当内容の講話を聴くこともある。講義であるが、演習的な要素を含む) (オフィス・ディ:水曜日、時間については要相談。)  評価基準 評価基準 評価方法  原則出席は3分の2以上とし、授業内における活動+コメント・小レポート50%と単位レポート50%のうち60%以上の評価を受けた者を単位認定する。(総合評価とする)	1-2 111 - 1	8. 自己アピールについて											
11. 履歴書から自己分析 12. 企業が求める人材とは 13. 就職活動と社会基礎力 14. 就職活動の流れと大学生活(大学就職部の役割) 15. まとめ (必要に応じて外部講師・ゲストスピーカーを招き、該当内容の講話を聴くこともある。講義であるが、演習的な要素を含む) (オフィス・ディ:水曜日、時間については要相談。)  評価基準 原則出席は3分の2以上とし、授業内における活動+コメント・小レポート50%と単位レポート50%のうち60%以上の評価を受けた者を単位認定する。(総合評価とする)  教科書 必要に応じて教員作成のものを配布	授業計画	9. 履歴書の書き方											
12. 企業が求める人材とは 13. 就職活動と社会基礎力 14. 就職活動の流れと大学生活(大学就職部の役割) 15. まとめ (必要に応じて外部講師・ゲストスピーカーを招き、該当内容の講話を聴くこともある。講義であるが、演習的な要素を含む) (オフィス・ディ:水曜日、時間については要相談。)  評価基準 原則出席は3分の2以上とし、授業内における活動+コメント・小レポート50%と単位レポードの場合であるが、する。  「本本のでは、大きないのでは、いきないのでは、大きないのでは、大きないのでは、大きないのでは、大きないのでは、大きないのでは、大きないのでは、いきないのでは、大きないのでは、大きないのでは、大きないのでは、大きないのでは、大きないのでは、大きないのでは、大きないのでは、まないのでは、大きないのでは、大きないのでは、大きないのでは、大きないのでは、いきないのでは、いきないのでは、いきないのでは、いきないのでは、ないのでは、いきないのではないのでは、いきないのではないのではないではないのではないのではないではないではないではないではないではないではないではないではないではない		10. 履歴書作成											
13. 就職活動と社会基礎力 14. 就職活動の流れと大学生活(大学就職部の役割) 15. まとめ (必要に応じて外部講師・ゲストスピーカーを招き、該当内容の講話を聴くこともある。講義であるが、演習的な要素を含む) (オフィス・ディ:水曜日、時間については要相談。)  評価基準 原則出席は3分の2以上とし、授業内における活動+コメント・小レポート50%と単位レポードがある。 評価方法 ト 50%のうち60%以上の評価を受けた者を単位認定する。(総合評価とする)		11. 履歴書から自己分析											
14. 就職活動の流れと大学生活(大学就職部の役割) 15. まとめ (必要に応じて外部講師・ゲストスピーカーを招き、該当内容の講話を聴くこともある。講義であるが、演習的な要素を含む) (オフィス・ディ:水曜日、時間については要相談。)  評価基準 原則出席は3分の2以上とし、授業内における活動+コメント・小レポート 50%と単位レポード 50%のうち 60%以上の評価を受けた者を単位認定する。(総合評価とする)		12. 企業が求める人材とは											
15. まとめ (必要に応じて外部講師・ゲストスピーカーを招き、該当内容の講話を聴くこともある。講義であるが、演習的な要素を含む) (オフィス・ディ:水曜日、時間については要相談。) 評価基準 原則出席は3分の2以上とし、授業内における活動+コメント・小レポート50%と単位レポート50%のうち60%以上の評価を受けた者を単位認定する。(総合評価とする)  教科書 必要に応じて教員作成のものを配布		13. 就職活動と社会基礎力											
(必要に応じて外部講師・ゲストスピーカーを招き、該当内容の講話を聴くこともある。講義であるが、演習的な要素を含む) (オフィス・ディ:水曜日、時間については要相談。)  評価基準 原則出席は3分の2以上とし、授業内における活動+コメント・小レポート50%と単位レポート50%のうち60%以上の評価を受けた者を単位認定する。(総合評価とする)  数科書  必要に応じて教員作成のものを配布		14. 就職活動の流れと大学生活(大	(学就職部の役割)										
であるが、演習的な要素を含む) (オフィス・ディ:水曜日、時間については要相談。)  評価基準 原則出席は3分の2以上とし、授業内における活動+コメント・小レポート50%と単位レポー 評価方法 ト50%のうち60%以上の評価を受けた者を単位認定する。(総合評価とする)  教科書  必要に応じて教員作成のものを配布		15. まとめ											
(オフィス・ディ:水曜日、時間については要相談。)  評価基準 原則出席は3分の2以上とし、授業内における活動+コメント・小レポート50%と単位レポー 評価方法 ト50%のうち60%以上の評価を受けた者を単位認定する。(総合評価とする)  教科書  必要に応じて教員作成のものを配布		(必要に応じて外部講師・ゲストス	ピーカーを招き、	該当内容の講話を聴くこともある。講義									
評価基準 原則出席は3分の2以上とし、授業内における活動+コメント・小レポート50%と単位レポー ド50%のうち60%以上の評価を受けた者を単位認定する。(総合評価とする) 数科書 必要に応じて教員作成のものを配布		であるが、演習的な要素を含む)											
評価方法 ト 50%のうち 60%以上の評価を受けた者を単位認定する。(総合評価とする) 教科書  必要に応じて教員作成のものを配布		(オフィス・ディ:水曜日、時間に	ついては要相談。)										
評価方法 ト 50%のうち 60%以上の評価を受けた者を単位認定する。(総合評価とする) 教科書  必要に応じて教員作成のものを配布	評価基準	   原則出席は3分の2以上とし、授業	内における活動+:	コメント・小レポート 50%と単位レポー									
必要に応じて教員作成のものを配布													
必要に応じて教員作成のものを配布													
	教科書	V#)zcho~#40/b->											
	参考書	必安に応しく教具作成のものを配布   											

	2 11 218 4	職名	教授 兼任講師						
科目名	キャリア・デザイン5	教員名	高橋暢雄・鈴木映衣子・高知利香						
授業形態	演習	単位数 (期間)	2 単位 (3年前期)						
・キャリア・デザイン1~4を踏まえ、これまで学んだ知識・スキルを活用し 方法を学ぶ。特にひとりだけでなく、チームによる問題解決の体験を通じて能 を学び、コミュニケーション能力を高め、他者理解できることを目標とする。 ・問題解決するために必要な方法論を学ぶ。方法論として資料収集、資料のま データの整理、その整理した資料の読み込み、資料をもとにした発表なども行 収集については、インタビューなどを含め、インターネットよる基礎資料の PDCA サイクルの考え方を活用しながら、実際の発表なども視野に入れも問題 成していきたい。									
授業計画	成していきたい。  準備学習:アンケートやデータの整理等は必ず事前に行うこと。  1. 問題解決学習のすすめ方  2. 問題解決と議論の活用  4. 資料収集・収集データのまとめ方  5. アンケート調査・インタビュー調査について  6. アンケート調査・インタビュー調査実施計画と方策の立案  7. アンケート調査・インタビュー調査実施の結果の整理  8. 結果の発表会  9. 結果の発表会  9. 結果の発表会と今後の課題  10. チームによる特定課題が同けての初調査・資料収集  11. チームによる特定課題諸調査・資料収集結果の発表  12. チームによる特定課題諸調査・資料収集結果の発表の今後の課題  13. 様々な調査資料収集や発表方法の紹介  14. CSR と PDCA サイクル  15. 全体のまとめ  (必要に応じて外部講師・ゲストスピーカーを招き、該当内容に参加してもらうことがある								
評価基準評価方法	原則出席は3分の2以上とし、授 ート50%のうち60%以上の評価を		- コメント・小レポート <b>50</b> %と単位レポ 3定する。(総合評価とする)						
教科書参考書	必要に応じて教員作成のものを配	布							

		職名	教授 兼任講師							
科目名	キャリア・デザイン 6	教員名	高橋暢雄・鈴木映衣子・高知利香							
授業形態	演習	単位数 (期間)	1 単位 (3年後期)							
授業の到達 目標及びテ ーマ 授業概要	活動を始める心構え習得し、その最終的な準備を整えることを目標とする。 ・12 月より一般的に言う就職活動がスタートすることもあり、学生生活と甘えの許されないを会への第 1 歩を踏み出すことになるため、そのマナーの最終確認と自己アピールの在り方にないて模擬面接などを踏まえ、講義する。									
授業計画	準備学習:実際の就活を意識したエントリシートや履歴書などを用意してくこと。  1. エントリシートと履歴書の意味するもの 2. 自己アピールを考える 3. 模擬面接(1)自己アピールと志望動機を意識して 4. 模擬面接(2)長所と短所を意識して 5. 模擬面接の振り返りと今後 6. 説明会、セミナーでのポイント 7. 服装やマナー、注意すべきこと 8. 大学の支援、ハローワークの役割 9. 就職活動そして、社会人へ  (必要に応じて外部講師・ゲストスピーカーを招き、該当内容に参加してもらうことがある。 模擬面接ではゲスト面接官なども招く。)									
評価基準評価方法	原則出席は3分の2以上とし、授業ト50%のうち60%以上の評価を受		コメント・小レポート 50% と単位レポー - る。(総合評価とする)							
教科書参考書	必要に応じて教員作成のものを配布									

## 第7章 本学の新教育課程と資格

ここで言う「資格」とは本学の教育課程を修了した時に取得できる免許・資格・認定証等のことを指す。なお、「資格」はキャリア教育を推進する上で有効なことは言うまでもないことだ。自らの資質・能力を開発し、正課とは異なる形で「目に見える実力」を身に付けてもらうため、開講しているのが卒業要件科目とは別の教育課程である。こうした教育課程では国家資格にかかわるものから民間の資格まであるが、価値ある資格の取得に向けた勉強と専門領域におけるスキルアップを図ることができる。重要なことはこうした資格等が本学の建学の精神、教育方針、養成する人材像と合致していることである。

本学の新教育課程とこれに関係する資格は以下の通りである。

- (1) 教職課程(英語科) 中学校教諭1種、高等学校教諭1種
- (2) プレゼンテーション実務士
- (3) 実践キャリア実務士
- (4) 日本語教員
- (5) 社会福祉主事任用資格

この5つの資格を本学の養成する人材像に当てはめると次のようになる。

- ① 国際語である英語の能力、プレゼンテーション、ビジネス、インターネット等の応用力 を習得し、仏語、中国語、韓国語といった語学能力の幅を広げること。
  - →教職課程(英語科)、プレゼンテーション実務士
- ② 異文化や国際社会を理解すること。
  - →教職課程(英語科)、実践キャリア実務士
- ③ 自国文化や歴史、社会を理解すること。
  - → 日本語教員
- ④ 乳幼児や高齢者等を理解すること。
  - → 社会福祉主事任用資格
- ⑤ ボランティアやインターンシップ、海外研修等の「行動・体験」の領域を重視すること
  - → 教職課程(英語科)、実践キャリア実務士

#### (1) 教職課程(英語科) 中学校教諭1種、高等学校教諭1種

本学の教職課程は2004年4月に中学校教諭1種(英語科)、高等学校教諭1種(英語科)、高等学校教諭1種(情報科)に開設した。2010年7月23日に中央教育審議会の実地視察を受けてので、この時に提出した書類等より本学の建学の精神と教職課程の理念を再掲したい。なお、この時には情報科コースも設置していたが、2013年度の入学生より教職課程は英語科だけの設置状況である。

本学は1学部1学科の大学として平成16年に開学し、現在も同様であることから、基本的には大学の設置の趣旨と教育方針及び教育上の理念・目的および養成する人材像が教職課程における理念に直結するものと考えている。そのため、建学の精神等を再度掲載し、説明することとする。

本学の建学の精神「他者理解」は学校法人の建学時の「報恩感謝の念」を他者を理解した上で報恩感謝の精神が生じてくるとの現代的な表現を行い、異なる他者を理解する精神である。 この精神を基に以下に掲げる4つの教育方針を標榜している。

- 1 国際的な視野を持ち、自己や自国文化および多様な他者に対する理解力に裏付けられた 国際社会に貢献する人材の育成を目指す。
- 2 国際的な協調、国際的な理解があらゆる分野で望まれている国家的要請に応え、異なる 他者とのコミュニケーションを実現していくツールとして、コンピユータ技術を習得すると ともに、社会で英語を使いこなせる英語コミュニケーション能力に長けた人材を育成する。
- 3 教養を単に知識に止めるのではなく、体験を通じて身につけることにより自発的に国際 社会に貢献しうる人材を育成する。
- 4 多様化する社会に対応するため、異文化への理解、尊重や交流、グローバルな視野で多元的に思考し、行動する質の高い人材の育成を目指す。

#### 教育上の理念、目的および養成する人材像

現代社会では、「グローバル化」「ボーダレース化」が進み、異文化に対する理解、尊重や相互 交流、地球的・多元的な視野が求められている。又、その前提としての自国文化・日本事情への 理解や、少子高齢化に伴う異なる世代への理解力も期待されている。変化が速い社会にあっては、 法律、政治、経済等への理解も必須である。

このような社会にあって、本学では、国際的な視野をもち、自己や自国文化、および多様な他者に対する理解力に裏付けられた人材の養成を目指している。さらに教育上の理念、目的および養成する人材像として5つの観点を上げている。

- ① 国際語である英語の能力、プレゼンテーション、ビジネス、インターネット等の応用力を 習得し、仏語、中国語といった語学能力の幅を広げること。
- ② 異文化や国際社会を理解すること。
- ③ 自国文化や歴史、社会を理解すること。
- ④ 乳幼児や高齢者等を理解すること。
- ⑤ ボランティアやインターンシップ、海外研修等の「行動・体験」の領域を重視すること。

現代社会では「グローバル化」「ボーダーレス化」が進み、異文化に対する理解、尊重や相互交流、地球的・多元的な視野が強く求められている。このような社会にあって本学では、国際的な視野を持ち、自己や自国文化、および多様な他者に対する理解力に裏づけられた人材の育成、すなわち国際的なコミュニケーション能力を身に付けた人材の養成を目指し、国際語である英語の習得、国境を越えたコミュニケーション・ツールとしての情報通信技術の修得、海外研修・国際交流の推進、留学生受け入れの奨励などを重視したカリキュラムを編成した。またコミュニケ

ーションの手法として、特に情報機器等を利用したプレゼンテーション能力(表現力、演出力)の育成を重視し、プレゼンテーションに関する専門科目も開設している。このほか、企業などの産業分野、世代を越えた福祉・教育の分野など、多様な他者に対する理解を深める科目も設置した。こうした他者との交流を図る上で、特に、インターネットをはじめとする情報通信技術、情報コミュニケーション能力の強化は、国際的な人的交流をはじめ、産業社会での活躍や異世代との交流を図るにあたって、きわめて重要な要素となっている。

そこで本学部で開設する専門科目「コンピュータコミュニケーション科目」では、単に情報の利用者・受け手側の能力育成にとどまらず、開発者・発信者側の能力を育成するため、情報処理振興事業協会が策定している「高度情報化人材育成標準カリキュラム」(厚生労働省・経済産業省承認)における「ソフトウェア開発技術者育成カリキュラム」の科目編成に準拠している。このカリキュラムは「情報処理技術者試験(基本情報技術者)と同程度以上の知識・技術を有し、高度情報処理技術者となることを目指す人材を対象として教育を行うことを目的」として作成されており、これに準拠した科目を修得することによって、情報の教職を履修する学生は、情報処理技術者試験(基本情報技術者)に合格するレベル以上の知識や能力、技術を習得することとなる。これにより、教職課程「情報」の免許の取得に必要な情報通信技術が習得できると考えている。

中央教育審議会視察委員の先生方も本学の建学精神等と教職課程設置の理念は極めて明確であるとのご意見をいただいた。しかし、実際に教職課程を履修しながら免許の取得者がきわめて少ないことについては、学生が履修を断念しないような大学側の工夫を行うことも求められた。こうした背景もあり、新しい教育課程においては、教職課程、特に教職に関する科目を卒業要件科目として配置することで履修しやすくなること、学生の負担が軽減されることを狙いとした。新たに卒業要件科目として配置したのは以下の科目である。

教職概論、教育原理、教育心理学、心身障害児教育 I 、心身障害児教育 II 、教育行政学、 道徳教育の研究

「教職概論」はキャリア教育推進の意味でも大きな役割を果たすものとして期待している。また、「教育心理学」、「心身障害児教育 I 」、「心身障害児教育 II 」は学生からの要望も高く、卒業要件科目となった。「教育行政学」と「道徳教育の研究」は日本理解関連科目として配置されることとなった。これは日本理解にとって教育の果たす役割は大きいと考えているからである。この 2 科目以外はすべて人間コミュニケーション理解関連科目として位置付けた。

## (2) プレゼンテーション実務士

一般財団法人全国大学実務教育協会認定のプレゼンテーション実務士は2004年4月の開学と同時にその教育課程を配置したが、2013年4月より新しい教育課程となる。同協会への申請書類よりその設置の趣旨等を掲載しておきたい。以下は2003年12月申請時の提出書類の内容である。

#### (主となる学科の教育目標)

本学学則に定められている通り、本学は教育基本法・学校教育法及び建学の精神に基づき、

教育を社会との関連において捉え、他者理解を根底においた創造的な知性と豊かな人間性 及び高度情報化社会に対応できる諸能力をそなえ、我が国及び国際社会の発展に寄与する 主体性のある人材の育成を目的とする。

#### (称号に関する教育体系)

現代の社会において、組織における他者との関わり方の中で、他者に自己の意思や意図を明確に伝え正確な影響力を行使することのできる人材が求められている。それを実現するため、活動的な表現演習とともに情報機器等の活用などを取り入れながら、より理論的、実践的な学習を行う必要がある。

そのためには、必修科目の「日本語表現法」「プレゼンテーション」においてプレゼン ─ションの基本的な理論を学び、「プレゼンテーション演習Ⅰ」「プレゼンテーション演習 Ⅱ」「情報機器利用プレゼンテーション演習」では実践的なプレゼンテーションの方法をコ ンピュータを含め様々な機器の利用法を取り入れて学習する。本学のカリキュラムのうち、 人間コミュニケーション理解関連科目には、「コミュニケーション概論」「異文化コミュニケ ーション」「言語的コミュニケーション」 「言語的コミュニケーション論 1 (音楽表現)」 「非言語的コミュニケーション論 2(造形表現)」 「言語的コミュニケーション論 3(行 動表現) | 「コマーシャル表現論 | 「映像表現論 | なども配置されており、プレゼンテーショ ン能力の向上に資すると考えられる。さらには、ビジネスにおけるプレゼンテーション能力 を重視する観点から、ビジネス実務分野より「ビジネス英語」「ビジネス・マネジメント」 等の科目、企業経営の分野から「現代企業と職業」等、情報関連分野から「情報処理入門」 「情報検索」「マルチメディア表現」等、現代社会の分野から「日本文化論」「国際情報論」 等、人間行動の分野から「心理学概論」「発達心理学」「社会心理学」等の科目を配置した。 多様な科目を配置することによって、プレゼンテーションの内容の組み立てや、資料の適切 性をより確かなものにすることが出来ると考えられる。「プレゼンテーション実務士」コース と「上級情報処理士」のコースを併せて履修することによって職業人の能力の資質向上を図 ることが出来るので、その方向性で学生を指導し、氾濫する情報を主体的に選択、整理し適 切に自己表現できる能力を身につけさせる。

以上のような教育を通して本学の教育目標である、我が国及び国際社会の発展に寄与する 主体性のある人材の育成に期する。

プレゼンテーション実務士は本学の「教育上の理念、目的および養成する人材像」の5つの観点 の第1「国際語である英語の能力、プレゼンテーション、ビジネス、インターネット等の応用力 を習得し、仏語、中国語といった語学能力の幅を広げること」に合致するものである。

#### (3) 実践キャリア実務士

一般財団法人全国大学実務教育協会認定の実践キャリア実務士は2013年度より新しく導入される資格である。協会が「大学教育から就業へつなぐ教育課程」を提案したものである。本学が新教育課程に伴う学則変更を決定後の3月に同協会より実践キャリ実務士の導入の通知

を受けた。もともとキャリア教育を推進する意味で新教育課程を導入する目的であったため、 その教育体系は新教育と合致しているため、前述のプレゼンテーション実務士と共に本学の 「建学の精神」や「教育上の理念、目的及び養成する人材像」と合致するため、本学では 2012 年7月に申請し、同年9月認定を受けた。以下は 2012 年7月の申請時の提出書類の内容であ る。

#### 〈主となる学部・学科の教育目標〉

本学学則に定められている通り、本学は教育基本法・学校教育法及び建学の精神に基づき、教育を社会との関連において捉え、他者理解を根底においた創造的な知性と豊かな人間性及び高度情報化社会に対応できる諸能力をそなえ、我が国及び国際社会の発展に寄与する主体性のある人材の育成を目的とする。

この教育目的を果たすべき、4つの教育方針を掲げている。

- 1 国際的な視野を持ち、自己や自国文化および多様な他者に対する理解力に裏付けられた国際社会に貢献する人材の育成を目指す。
- 2 国際的な協調、国際的な理解があらゆる分野で望まれている国家的要請に応え、異なる他者とのコミュニケーションを実現していくツールとして、コンピュータ技術を習得するとともに、社会で英語を使いこなせる英語コミュニケーション能力に長けた人材を育成する。
- 3 教養を単に知識に止めるのではなく、体験を通じて身につけることにより自発的に国際社会に貢献しうる人材を育成する。
- 4 多様化する社会に対応するため、異文化への理解、尊重や交流、グローバルな視野で多元 的に思考し、行動する質の高い人材の育成を目指す。

#### 〈当該資格の教育目標〉

本学が目指す教育を社会との関連において捉え、他者理解を根底においた創造的な知性と豊かな人間性及び高度情報化社会に対応できる諸能力をそなえ、我が国及び国際社会の発展に寄与する主体性のある人材養成として4つの教育方針を掲げている。特に、本学教育方針3及び4は実社会を実践の場としてとらえ、社会で自立できるよう、問題意識や問題解決能力を高め、自らのキャリアを考え、能力開発していくことを目標とすることから、学部教育の目標と合致するものである。

#### 〈当該資格課程の全教育課程における位置付け〉

全教育課程(卒業要件科目の教育課程)の基礎科目では「キャリア・デザイン1~6」を学年として1学年から3学年まで必修となっている。当該資格課程は3科目を除きすべてが全教育課程となっており、3科目についてもプレゼンテーション実務士の教育課程の必修科目であることから、多くの学生が履修しやすくなるように工夫してある。全教育課程の履修モデル・コースとして「ビジネスコミュニケーション・コース」を設定するが、実践キャリア実務士は、特にこのコースを履修する学生の教育目標とも合致しており、全面的に履修を推奨していく。選択科目 I 群では「実践キャリア考」「大学の基礎教育」「ビジネス基礎」「人間行動」「現代社会」にそれぞれすべてに科目を配置する。なお、既設としてプレゼンテーション実務士の

教育課程もあり、実践キャリア実務士資格の教育課程も本学の教育目標及び人材養成とも合致 している。また、「Ⅲ群 合的実践実務分野」においても実践キャリア実務の趣旨を鑑み、2 単位は選択必修として履修させる。

キャリア教育導入にあたり平成 25 年度より学則変更により全教育課程の ICT 教育の内容も理論から実際の活用を重視した内容へと変更し、平成 23 年度新入生より ipad を無償貸与も実施。新たに「ビジネス・コミュニケーション」「国際経営」「国際金融」など職業やビジネス界に関する知識を深めるための科目も配置した。また、インターンシップやボランティアなどの科目はこれまで通りそのまま継続して配置することによって職業生活、市民生活に対する問題意識を高め社会的・職業的自立のための基礎力育成に寄与できるものである。

#### (4) 日本語教員

本学は国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科という性格から、当初より留学生の受け入れについては強く意識してきた。短大時代より中国・大連外国語学院とは交流をしており、これを強く意識して日本語教員養成課程の教育課程を 2004 年 4 月の開学当時より開講した。本学日本語教員養成課程修了証に関する規程の教育課程にその趣旨が記載されているので紹介しておきたい。

#### (教育課程)

第2条 武蔵野学院大学(以下「本学」という)の学生で、日本語を母語としない人に 日本語や日本に関することを教える日本語教員となるために社会、文化、教育、 言語に関する領域を学び、文化庁、「日本語教員の養成に関する調査研究協力者会 議」の『日本語教員のための教員養成について』に基づいて修了証発行に必要な単 位が取得できるように教育課程を設ける。

日本語教員については日本人が日本語を母語としない外国人に日本語を教える場合と留学生が将来日本語教員となることのふたつを想定している。何れも本学の「建学の精神」や国際人であること、国際貢献を目指すものとして本学の教育理念や養成する人材像に合致するものである。

#### (5) 社会福祉主事任用資格

本学は人間コミュニケーション理解関連科目に社会福祉、教育、コミュニケーションの科目が 2004 年開学当時より配置されているが、今回の新教育課程では学生のニーズや教職課程の充実を図るべく 卒業要件科目にも配置されることとなった。

本学社会福祉主事任用資格に関する規程の第2条において以下のように定めた。

#### (任用資格の取得)

第2条 武蔵野学院大学(以下「本学」という)の学生で、社会福祉施設の相談員や指導員、 社会福祉協議会などの職員となるために社会福祉、老人福祉、心理学、倫理学、教育原理等、 社会福祉法第19条第1項第1号により、厚生労働大臣が指定した科目を修めて卒業したものに社会福祉主事任用資格に必要単位を取得した証明書を発行する。

必要な科目の単位は通称3科目主事と呼ばれ、本学では「社会福祉」「老人福祉」を必修科目として、さらに「倫理学」「教育原理」「心理学概論」の中から1科目を履修すれば社会福祉主事任用資格に関する単位取得証明書を発行することとした。本学の目指す養成する人材像「④乳幼児や高齢者等を理解すること」に合致するものである。

### 付録 インターンシップに関する取り組みについて

2004 年開学の武蔵野学院大学は教育課程の中に国際コミュニケーション実習を設け、その中で「インターンシップ 1」(実習:2 単位)及び「インターンシップ 2」(実習:2 単位)の科目を設置してきた。これは大学設置にあたり、座学だけでなく、社会に出る前に十分な経験を積んでもらいたいというキャリア教育の趣旨を当初より取り入れたものです。準備教育等を踏まえ、配当年次を  $2\cdot3$  年次とした。大学設置時における大学設置審には下記の計画で書類を提出した。

第1日	導入研修	導入研修
第2日	・農業の1年間の流れ ・農業の現状とコンピュータ化	・企業概要、研修内容説明・社内見学
第3日	基礎研修         ・農具の扱い方	・ビジネスマナー 基礎研修
第4日	<ul><li>・作物の育て方</li><li>・農業用コンピュータの使い方</li></ul>	・商品知識習得 ・工場、小売見学
第5日	実習研修	・接客態度、心構え
第6日	・稲作体験 (米作り) ・畑作体験 (ジャガイモ、カボチャ、 タマネギ、メロン作りなど)	実 <b>習研修</b> ・受付、接客(サービス業)
第7日	・地域の農村の方々との語らい	・取材、編集(マスコミ) ・工場実習(製造・食品業)
¥8 Ħ	・育苗・生産技術試験体験 ・農作物、酪農製品の生産、加工、販	・医療・福祉実習(医療・福祉) ・プログラミング・ソフト作成 (コンピュータ関係)
<b>第</b> 9日	売システム見学	(1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)
第10日	まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

これまでは「インターンシップ 1」はおもに第 1 次産業である農業体験、「インターンシップ 2」ではサービス業を中心にした企業でのインターンシップを 2005 年より開始し今日に至っている。 別添の過去 3 年間のおもな実習先などを示した「インターンシップの実績(過去 3 年間)」はその一例である。

農業体験では 2005 年~2012 年までは北海道余市郡赤井川村役場に取り次いでもらい、各農家 (農園) で実習を行っている。学生は役場における全体説明や村における農業支援の実態等を学び、さらに農作物がどのような流通を経て、店頭や各家庭に届くのか、といったことも学び、その後各農家、農園での実習となる。農家や農園により実習内容は異なるが、農家 (農園) での実習を通して、農家 (農園) の生活やその労働体験、野菜や果物等の手入れなどを通して食に対する新たな意識なども生まれている。また、天候に左右されながら、雨天の場合には室内での作業など、凡そこれまでの日常生活では体験できない新しい世界を知ることとなった。研修後の最終日には学生と農家 (農園) が揃い懇談しながら実習での報告や感想などを発表し、農家 (農園) の方からもさらにアドバイスや農家 (農園) の今後の行く末などの意見交換などを行った。

学生は事前に大学での事前指導を受けたのちに役場での指導を受け、現場では農家(農園)の

指導を受け、最終的には学生より報告書(日誌)を提出してもらい、現場での評価等に関して最終的評価を教員が決定する。なお、実習先が北海道であることから、インターンシップ担当の教員は引率し、各農家(農園)を訪問し、農家(農園)にヒアリング等も行っている。

企業体験では、学生が望む企業体験の内容や大学が提供できる実習先等をすり合わせながらインターンシップを実施している。新たな実習先の確保も重要な課題ですが、現状ではこれまでの実習先が継続的にインターンシップの受け入れを承諾し、学生を派遣している。企業研修の場合には、派遣前に大学における事前指導(社会的マナー)などを確認することに多くの時間が割かれるが、実習先でのレクチャーにより、インターンシップの意義等が現場で実感できる。その後実習となる。実習内容は実習先により大きくことなり、最終的に事後指導における発表会等で他の実習先の様子なども学生は知ることができる。

大学は各実習先とインターンシップの承諾書を取り交わし、実習期間等その他取り決めて学生を派遣している。実習期間についても内容や期間中に休日が含まれるか否か、あるいは学生が体調不良等なった場合の措置などにより、若干異なっているが、概ね期間は1週間から2週間。短期期間の場合には2か所になる場合などもある。別添資料「インターンシップの実施に係る覚書」の(派遣期間(第4項)については双方で十分協議した上で決定している。学生は災害保険・賠償保険(東京海上日動火災保険他6社共同引き受け)に加入し、実習に臨んでいる。なお、実習先の求めに応じ、食品関係等の場合には保菌検査等も実施している。過去の実績を踏まえて、2単位の実習科目だが、事前事後の指導の充実や実習先との調整から、履修の前年よりオリエンテーションを実施しながら、過去の実績を踏まえて現在も実施している。

評価については事前指導・実習・事後指導の3つの要素があるが、実習前後の学生の労働意識・労働観の変化も重要な要素であると考えている。なお、企業側も必ずしもインターンシップの受け入れについて広く門戸を開いている状態ではない現状もあるが、本学ではこれまでの実績もあり、インターンシップの実習先は充分に確保できる。最後にインターンシップは受け入れ先の状況等により人数等も確約はできないものの、これまでの実績等承諾書をいくつか添付致します。インターンシップは個別対応のケースが多く、1年以上前から承諾書といったものを入手することは困難なため、現状を踏まえてのものである。

## インターンシップの実績(過去3年間)

実施年度	事業所名	実習場所	実習期間	担当教員
平成21年度	赤井川村農家(農園)	二川、佐々木、石川、岡、林、湯澤、丸山、	平成21年08月26日(水)~平成21年09月04日(金)	山本准教授
平成21年度	東京室内歌劇場	スタジオ・アマデウス	平成21年11月15日(日)~平成21年11月22日(日)	山本准教授
平成21年度	サンシャインシティプリンスホテル	中国料理古稀殿	平成21年12月01日(火)~平成21年12月14日(月)	山本准教授
平成21年度	サンシャインシティプリンスホテル	バイエルン	平成21年12月01日(火)~平成21年12月14日(月)	山本准教授
平成21年度	サンシャインシティプリンスホテル	ロビーラウンジ	平成21年12月01日(火)~平成21年12月14日(月)	山本准教授
平成21年度	サンシャインシティプリンスホテル	むさし野	平成21年12月01日(火)~平成21年12月14日(月)	山本准教授
平成21年度	有限会社 パラビジョン	埼玉県狭山市	平成22年01月18日(月)~平成22年01月27日(水)	山本准教授
平成21年度	株式会社NECライベックス	武蔵野学院大学食堂	平成21年11月24日(火)~平成21年12月02日(水)	山本准教授
平成21年度	株式会社丸広百貨店入間店	さくら草イベントBG、販売サービス	平成22年01月20日(水)~平成22年01月26日(火)	山本准教授
平成22年度	赤井川村農家(農園)	石川、佐々木、岡、二川、岩本、林、	平成22年08月25日(水)~平成22年09月03日(金)	柴田専任講師
平成22年度	東京室内歌劇場	稽古場、渋谷さくらホール、横浜開港記念館	平成22年11月18日(木)~平成22年11月24日(水)	吉井准教授
平成22年度	サンシャインシティプリンスホテル	バイエルン	平成22年12月15日(水)~平成22年12月28日(火)	吉井准教授
平成22年度	株式会社丸広百貨店入間店	婦人雑貨	平成22年12月1日(水)~平成22年12月7日(火)	吉井准教授
平成23年度	赤井川村農家(農園)	岡、岩本、二川	平成23年08月24日(水)~平成23年09月01日(金)	柴田専任講師
平成23年度	太陽企画株式会社	東京都港区	平成23年08月31日(水)~平成23年09月14日(水)	吉井准教授
平成23年度	天丼てんや	池袋店	平成23年11月11日(月)~平成23年12月19日(月)	吉井准教授
平成23年度	株式会社鈴忠	シューマック王子店	平成23年11月14日(月)~平成23年11月27日(日)	吉井准教授
平成23年度	株式会社丸広百貨店入間店	婦人雑貨	平成23年12月01日(木)~平成23年12月14日(水)	吉井准教授
平成23年度	株式会社丸広百貨店入間店	イーストボーイ	平成23年12月01日(木)~平成23年12月14日(水)	吉井准教授
平成23年度	埼玉舞台サービス株式会社	狭山市市民会館	平成23年12月02日(金)~平成23年12月15日(木)	吉井准教授
平成23年度	サンシャインシティプリンスホテル	中国料理古稀殿	平成23年12月15日(木)~平成23年12月28日(水)	吉井准教授
平成23年度	サンシャインシティプリンスホテル	バイエルン	平成23年12月15日(木)~平成23年12月28日(水)	吉井准教授
平成23年度	サンシャインシティプリンスホテル	ロビーラウンジ	平成23年12月15日(木)~平成23年12月28日(水)	吉井准教授
平成23年度	サンシャインシティプリンスホテル	むさし野	平成23年12月15日(木)~平成23年12月28日(水)	吉井准教授
平成23年度	株式会社テイツー	古本市場(池袋)	平成23年12月24日(土)~平成24年01月09日(月)	吉井准教授
平成23年度	有限会社 パラビジョン	埼玉県狭山市	平成24年01月16日(月)~平成24年01月27日(金)	吉井准教授
平成23年度	東京室内歌劇場	新国立劇場他	平成24年01月17日(火)~平成24年01月27日(金)	吉井准教授
平成23年度	東京室内歌劇場	東京室内歌劇場	平成24年01月24日(火)~平成24年01月30日(月)	吉井准教授

(実践キャリア実務士教育課程認定申請書添付資料)

## (付録)ボランティアに関する取り組みについて

2004年開学の武蔵野学院大学は教育課程の中に国際コミュニケーション実習を設け、その中で「ボランティア1」(実習:2 単位)及び「ボランティア2」(実習:2 単位)の科目を設置してきた。これは大学設置にあたり、座学だけでなく、社会に出る前に十分な経験を積んでもらいたいというキャリア教育の趣旨を当初より取り入れたもの。準備教育等を踏まえ、配当年次を2・3年次とした。大学設置時における大学設置審には下記の計画で書類を提出した。

51日	導 入		尊 入				
2日	・オリエンテーショ ・ボランティアの必		・オリエンテーション ・ボランティアの必要性				
3 日	実 践		実践				
	〇教育支援	〇収集活動	〇自然環境保全活動	〇収集活動			
	・子育て支援	(書き損じはが	・植林活動	(書き損じは			
Ħ	・不登校児ケア	き、テレカ、コイ	・生態系保護活動	テレカ、コイ			
	・社会教育施設で	ン、切手、ベルマ	・自然観察活動	手、ベルマー			
日	の活動等	ーク、グリーンス	・クリーンアップ活動	リーンスタン			
		タンプ、ブルーチ	等	ルーチップ、			
<b>1</b>	○福祉支援	ップ、ロータスク		スクーポン(			
	・障害者介助	ーポン 等)	〇地城活動	Oリサイク			
	・高齢者介助	○リサイクル	・防災活動	(古紙、ごみ			
H	・一人暮らし食事	(古紙、ごみ、衣	・地域づくり				
	サービス	料、ビン、缶、石	・地域づくり・・・交通安全活動	ビン、缶、石			
日日	・デイサービス等	鹸、フリーマーケ	1 /	9-2-09			
$\longrightarrow$		ット等)	・公共施設の清掃等				
日		·					
	まとめ		まとめ				
D E	・感想発表、討議等		・感想発表、討議等				

#### [ボランティア情報関係機関一覧]

「全国体験活動ボランティア活動総合推進センター」

(住所:東京都台東区上野公園 12-43 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター内)

「日本国際ボランティアセンター」(住所:東京都台東区東上野 1-20-6 丸幸ビル 6F)

「国際ボランティア連絡会議」(住所:東京都文京区千駄木 3-50-2 FT文教 204 号)

「埼玉県ボランティア相談センター」 (住所:埼玉県北足立郡伊奈町小針内宿 1600)

「埼玉県社会福祉協議会埼玉県ボランティアセンター」(住所:埼玉県さいたま市岸町 7-4-17)

「社会福祉法人狭山市社会福祉協議会ボランティアセンター」

(住所:埼玉県狭山市入間川2-4-13 狭山市社会福祉会館内)

別添の過去3年間のおもな実習先などの示した「ボランティアの実績(過去3年間)」はその一例である。

実際にボランティアを同じ箇所・場所で1週間程度行うことはあまりなく、現実的には $1\sim3$  箇所・場所を $1\sim3$  日間ごとに実習することが主となっている。特に事前指導には力をいれ、実習先で注意すべき点などを徹底し、さらにボランティアの現場でも簡単な事前指導を受けること

は言うまでもない。事後指導はボランティアの振り返り等を行う。ボランティア実習先の決定についてはおもに2つの経緯を経ている。

1) ボランティア実習先を自分で探し、実習。

この場合にはまずボランティア情報を得ることが最大のポイントになる。しかし、この数年ボランティアを求める情報は多く、インターネットの活用や各機関に個人で問い合せても情報を得、ボランティア活動に関するすることができるようになっている。実際に実習する際には科目担当者を経て、大学に届け出をすることになる。

2) 大学に依頼のあるボランティア活動で実習。

過去の実習先より継続的に実習を依頼されることが多くなっている。また、大学では教職課程の教育課程(高等学校・中学校教諭)があることから、中学校教諭の免許状を取得するためには介護体験が義務付られており、この場合には埼玉県社会福祉協議会を通して社会福祉施設等での実習を行っており、すでにこうした関係ができている。さらに、併設(同敷地内運営)の武蔵野短期大学幼児教育学科には教職課程(幼稚園教諭)と保育士養成課程があり、こうしたことから初等教育及び社会福祉施設、児童福祉施設との関係が深く、ボランティア活動に関する情報が大学に集まって来る。大学にも開学時よりボランティア部もあり、同様に情報が集まって来ている。

さらに、武蔵野短期大学附属幼稚園が大学より徒歩 10 分程度のところに位置しており、幼稚園行事へのボランティア活動も要請があり、日常的にボランティア活動する環境でもある。現在、ボランティアの授業担当者は狭山市社会福祉協議会のボランティア運営委員を務めていること、大学専任教員の中に高等学校長経験者、併設短大の専任教員の中には小学校長、幼稚園長経験者や介護福祉士として社会福祉法人実務経験者もおり、こうした人的交流からボランティア活動をすることも少なくなく、ボランティア活動の場が広がっているばかりでなく、本学卒業生もすでに社会福祉施設に多くのものが就職している実績もある。老人ホームにおけるディサービスへの参加や介護補助などもここ数年多くなっている傾向がある。

#### 3) 留学生の活躍の場

本学にはボランティア活動にあまり慣れていない留学生もいるが、小中高等学校の「総合的学習の時間」における国際理解の一環として、留学生が各学校が母国の紹介をするなどして、近隣学校での活動もある。さらに、地域住民の求めに応じて中国語の学習の時間での講師を務めることなどもあり、現実的なところで実際にボランティア活動をしている。

#### 4) 震災関係のボランティア

ここ 1・2 年の実績では実際に東北の被災地で、授業とは関係ないが、ボランティア活動を行う者、あるいは被災地へ送る物資の整理等を各地元公民館等で行っている事例もあり、ボランティアの重要性が増している。

学生は災害保険・賠償保険(東京海上日動火災保険他 6 社共同引き受け)に加入し、実習に臨んでいる。通称ボランティア保険も担保されている。なお、実習先に求めに応じ、保菌検査等も実施している。評価についてはすべての実習先を巡回指導することは困難であるため、準備の様子、実際に実習に行った証明やその後に提出される報告書、全体での発表会等での内容等を勘案して評価している。

## ボランティアの実績(過去3年間)

実施年度	教育分野	福祉分野	地域活動	その他	担当教員
平成21年度	中央公園冒険	老人ホームコスモス	狭山の森 清掃	緑の羽	輪嶋教授
平成21年度	7匹子豚	老人ホームあやめ会	粂川野球の補助	献血補助	輪嶋教授
平成21年度	狭山市立堀兼小学校	大山保育園	荒川明るい社会つくりの会	100キロ歩く説明会	輪嶋教授
平成21年度	子どもとあそぶ	八王子障害者	世田谷区ドックハウス	ファミリマート	輪嶋教授
平成21年度	武蔵野短期大学附属幼稚園補助	練馬区障害者	豊島区公園清掃	狭山サティ	輪嶋教授
平成21年度	狭山第2児童館	ドナルドグループ	吉見市清掃	(株)水道救急車	輪嶋教授
平成21年度	狭山第3児童館	新座EandE赤子世話	代田東町会	留学生と大宮散策	輪嶋教授
平成21年度	狭山第4児童館	豊島区ファミリサポート	地球環境		輪嶋教授
平成21年度	竹の塚学習センター	まごころ保育園	マンション清掃		輪嶋教授
平成21年度	日本学生センター目黒	大和南保育園	台南金曜クラブ		輪嶋教授
平成21年度	大泉第2小学校水泳補助	ゆめの園老人施設	ディ来夢来夢		輪嶋教授
平成21年度	狭山市川小あそび	ウィズアイ	ビラ祇園清掃		輪嶋教授
平成21年度	狭山台北小学校	ほりっこクラブ	松戸里山活動		輪嶋教授
平成21年度	狭山市中央児童館	清瀬市老人	駒込地域清掃		輪嶋教授
平成21年度	狭山本気で遊ぶ子	北大泉保育園	水辺の里清掃		輪嶋教授
平成21年度	狭山市広瀬小ビズキッズ	老人ホームさくら	川遊びわくわく		輪嶋教授
平成21年度	与野本町児童センター	養護さやま苑	東池袋花壇管理		輪嶋教授
平成21年度	文京区立窪町小学校	大和南保育園	栄建設		輪嶋教授
平成21年度	中国語指導	板橋知的ボーリング	中央公園清掃		輪嶋教授
平成21年度		足立あかしあ園	和光市お祭り手伝い		輪嶋教授
平成21年度		練馬夢庵	北区浮間のお祭り手伝い		輪嶋教授
平成21年度		デイサービスいなりやま	板橋区こどもとあそぶ		輪嶋教授
平成21年度		台南金曜クラブ	汐入公園まつり補助		輪嶋教授
平成21年度		北保木間保育園	赤坂区民センター		輪嶋教授
平成21年度		つつじの園	北浦和図書館		輪嶋教授
平成21年度		デイさくら	川口アートギャラリー		輪嶋教授
平成21年度		川口市特別養護老人ホーム	足立区交通安全		輪嶋教授
平成21年度		みのり福祉会	足立区町会模擬店		輪嶋教授

実施年度	教育分野	福祉分野	地域活動	その他	担当教員
平成22年度	狭山市第3児童館	川口市老人ホームれんげそう	台東区お祭り補助	箱根駅伝補助	輪嶋教授
平成22年度	北区幼稚園補助	板橋区赤塚保育園	熊谷市原山公園清掃	入間市ランニング教室補助	輪嶋教授
平成22年度	東村山市学習ボランティア	板橋区高島つぼみ保育園	川遊びわくわく	あしなが募金	輪嶋教授
平成22年度	狭山市第3児童館子ども祭補助	狭山団地高齢者介護	所沢市清掃活動	ペンギン募金	輪嶋教授
平成22年度	武蔵野短期大学附属幼稚園花火大会補助	東村山市老人ホーム	越谷市防犯活動	北海道小樽市ホピの丘	輪嶋教授
平成22年度	狭山市立広瀬小ビズキッズ補助	東村山高齢者ボランティア	埼玉県森林公園清掃活動	切手リサイクルボランティア	輪嶋教授
平成22年度	北区幼稚園補助	戸田市障害者施設	台東区入谷廃品回収		輪嶋教授
平成22年度	蕨市幼稚舎	戸田市若草障害福祉施設	所沢ペットボトルキャップ集め		輪嶋教授
平成22年度	東村山市児童館	狭山市青柳保育園清掃	目黒区清掃活動		輪嶋教授
平成22年度	智光山英語サマーキャンプポランティア	狭山市老人センター	狭山市かけっこの会		輪嶋教授
平成22年度	狭山市広瀬小ビズキッズ	板橋区託児ボランティア	新宿区清掃活動		輪嶋教授
平成22年度	狭山市第2児童館	富士見市障害者サポート	北越谷自転車防犯ボランティア		輪嶋教授
平成22年度	東村山市化成児童館	戸田市文化会館託児ボランティア	浦和市防犯ボランティア		輪嶋教授
平成22年度	市ヶ谷楽笑中国語塾	狭山市老人ホームつつじの園	日高市鹿山地区廃品回収		輪嶋教授
平成22年度	広瀬っこ放課後クラブ	狭山市老人ホームさやま苑	南与野市DIY衣類仕分		輪嶋教授
平成22年度	狭山市台南小学校	デイサービスさくら	静岡県富士見市緑地公園清掃		輪嶋教授
平成22年度	狭山ひかり幼稚園	横浜市和楽の里高齢者	愛宕公園清掃活動		輪嶋教授
平成22年度	武蔵野短期大学附属幼稚園花火大会補助	狭山市柏原老人ホーム	池袋薬物ボランティア		輪嶋教授
平成22年度	大泉小学校	富士見台デイサービスセンター	上野動物公園案内ボランティア		輪嶋教授
平成22年度	狭山台わんぱく広場	中野区障害者メイプルガーデン	葛飾区清掃活動		輪嶋教授
平成22年度	狭山清陵高等学校	三郷養護学校	ペットボトルキャップボランティア		輪嶋教授
平成22年度	相模原市社会教育団体	中野区障害者カサデオリーバ	狭山市図書館		輪嶋教授
平成22年度	モバイル学会運営ボランティア	東村山市秋水園センター	あきかんあつめ		輪嶋教授
平成22年度	台っ子わんぱく広場	狭山台運転代行	狭山市スペースTie中央公民館		輪嶋教授
平成22年度	武蔵村山市小学校	北区デイケアー	足立区西竹ノ塚南町会清掃		輪嶋教授
平成22年度		新宿区ぬくもりサロン			輪嶋教授
平成22年度		池袋ディサンター			輪嶋教授
平成22年度		ディサービスオリーブ			輪嶋教授
平成22年度		狭山市大樹の家			輪嶋教授
平成22年度		新宿区けやき園			輪嶋教授

実施年度	教育分野	福祉分野	地域活動	その他	担当教員
平成23年度	狭山第3児童館	荒川区高齢者	川口市小谷避難訓練	みどりの羽 小岩井駅	
平成23年度	狭山市学習支援ボランティア	川崎市老人ホーム	川口市小谷防犯パトロール	子宮頸がんバッチ	輪嶋教授
平成23年度	狭山第3児童館子供祭	狭山市老人ホームつつじの園	台東区町会子供会	小岩駅ボーイスカウト震災募金	輪嶋教授
平成23年度	東村山市化成小児童クラブ	狭山市老人ホームさやま苑	狭山元気キッズ	東日本献血	輪嶋教授
平成23年度	清瀬jacクラブボランティア	稲荷山介護施設	狭山かけっこ教室	箱根駅伝観客整理	輪嶋教授
平成23年度	狭山第4児童館子供祭	狭山市入間子供支援	台東区スポーツ少年団	日韓アジア支援年賀状	輪嶋教授
平成23年度	狭山市広瀬小ビズキッズ	狭山市ファミリア高齢者	世田谷区赤堤小祭	夢の島運動公園パリンピック補助	輪嶋教授
平成23年度	板橋区紅梅児童館	ディサービス狭山	八王子図書館		輪嶋教授
平成23年度	児童学習支援狭山	戸田市喜沢保育園	狭山台中央公園遊び応援団		輪嶋教授
平成23年度	豊島区学習支援	上尾市知的障害支援	sjrc渋谷ランナーズ		輪嶋教授
平成23年度	狭山市第3児童館ハロウィン祭	戸田ファミリー託児ボランティア	狭山市七夕祭ボランティア		輪嶋教授
平成23年度	狭山市立入間川東小学校	ディサービスファミリア	千葉県印西市INBAボランティア		輪嶋教授
平成23年度	入間児童館駅伝並走	日野市高齢者介護	西川口駅清掃活動		輪嶋教授
平成23年度	安行中学校テニス大会ポランティア	狭山市社会福祉会館	荒川秋祭		輪嶋教授
平成23年度	国連大学GEOC	東池袋ホームレス炊き出し	西東京市防犯パトロール		輪嶋教授
平成23年度	川越市小学校図書整理	南入曽むさしの園高齢者支援	葛飾区清掃活動		輪嶋教授
平成23年度	入間川幼稚園	上板橋保育園クリスマス会	東久留米市社会福祉ベルマーク		輪嶋教授
平成23年度		東村山市第1保育園	光が丘バザー		輪嶋教授
平成23年度		萩山憩いの家	川口おかめ市祭り		輪嶋教授
平成23年度			豊島区駒込防犯活動		輪嶋教授
平成23年度			荒川土手清掃活動		輪嶋教授
平成23年度			武蔵野市公園清掃		輪嶋教授
平成23年度			所沢図書館整理		輪嶋教授
平成23年度			狭山市博物館		輪嶋教授
平成23年度			文京区林泉寺清掃		輪嶋教授
平成23年度			鶴ヶ島防犯パトロール		輪嶋教授
平成23年度			ほりかね公民館		輪嶋教授
平成23年度			川口朝市フリーマーケット		輪嶋教授
平成23年度			所沢旭町公民館		輪嶋教授

(実践キャリア実務士教育課程認定申請書添付資料)

## 新教育課程と資格等との履修上の関係

国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科

	松米村口のクシ		配当		立数ス		授業	英語	日本語	シブレン	実践キャ	社 任会 用福	Alle de	
		Ť	受業科目の名称	年次	必修	選択	自由	形態	數職	斯數員	ン実務士	務士リア	資祉格主事	備考
	-4-	B1	歴史と文学	1.2		2		講義						卒業要件 124単位以上
	文 化	B2	伝統と文化	1.2		2		講義						基礎科目
		ВЗ	倫理学	1.2		2		講義				0	0	必修単位数 11単位
ĺ		B4	現代社会論1(日本国憲法を含む)	1.2		2		講義	0			0		選択必修単位数 9単位
		B5	現代社会論2	1.2		2		講義				0		計20単位以上
		В6	現代社会論3	2.3		2		講義			0	0		
		В7	現代社会論4	3.4		2		講義				0		
	~1		環境と科学	1.2		2		講義						
	科 学	В9	生活と自然	1.2		2		講義						
		B10	情報処理入門	1.2		2		演習	0		0	0		
	スポ	B11	こころとからだ	1.2		2		講義						
基		B12	スポーツ1	1.2		1		実習	0					
基礎科	 "Y	B13	スポーツ2	2.3		1		実習	0					
			スポーツと健康	2.3		2		演習	0					
Ħ			英語コミュニケーション	1.2		2		演習	0					
	総	B16	中国語コミュニケーション	1.2		2		演習	0					
		B17	キャリア・デザイン1	1	2			講義				0		
	合科目	B18	キャリア・デザイン2	1	2			講義				0		
	Ħ	B19	キャリア・デザイン3	2	2			講義				0		
		B20	キャリア・デザイン4	2	2			講義				0		
		B21	キャリア・デザイン5	3	2			演習			0	0		
		B22	キャリア・デザイン6	3	1			演習						
									73	44	22	16	6	資格取得に必要な単位数
									49	12	10	4	4	(内、必修単位数)
									24	32	12	12	2	(内、選択単位数)

		4	受業科目の名称	配当		立数ス		授業	英語	日本語	ションメンジ	実践キャ	社 任会 用福	備考
		1	文条付白の石が	年次	必修	選択	自由	形態	教職	數員	ン実務士	±リア	資祉 格主 事	VIE **5
		B23	English Reading	1	2			演習	0					言語コミュニケーション科目
		B24	English Writing	1	2			演習	0					必修単位数 8単位
		B25	Oral English	1	2			演習	0					
		B26	Advanced English Reading	2		2		演習	0					言語コミュニケーション科 目、デジタルコミュニケー
		B27	Advanced English Writing	2		2		演習	0					ション科目、人間コミュニ
		B28	Advanced Oral English	1	2			演習	0					ケーション理解関連科目、日 本理解関連科目、国際事情理
		B29	Integrated English	3.4		2		演習	0					解関連科目よりそれぞれ選択 必修4単位。
		B30	English Grammar	2.3		2		演習	0					7.18 土土17.0
	言	B31	Public Speaking	2.3		2		演習	0					
	語コ	B32	Communication English	1.2		2		演習	0					
	3	B33	英語討論	3.4		2		演習	0		0			
	ュニ	B34	ビジネス英語	3.4		2		演習	0		0	0		
	ケ	B35	英語学概論	2.3		2		講義	0					
	シ	B36	英米文学史	1.2		2		講義	0					
	Ξ	B37	英書講読	3.4		2		演習	0					
専	ン 科	B38	中国語 I	1.2		2		演習	0					
門科	Ħ	B39	中国語Ⅱ	1.2		2		演習	0					
目		B40	中国語Ⅲ	2.3		2		演習	0					
		B41	韓国語 I	1.2		2		演習	0					
		B42	韓国語Ⅱ	1.2		2		演習	0					
		B43	フランス語 I	1.2		2		演習	0					
		B44	フランス語 Ⅱ	1.2		2		演習	0					
		B45	日本語 I	1.2		2		演習						Woder wystki lie
		B46	日本語Ⅱ	1.2		2		演習						※日本語 I ~Ⅲは留学生・帰国 子女のみ
		B47	日本語Ⅲ	2.3		2		演習						
	デ	B48	情報リテラシー	1.2		2		講義				0		
	ジ	B49	デジタルコンテンツ演習1	1.2		2		演習				0		
	シル	B50	デジタルコンテンツ演習2	1.2		2		演習				0		
	3 3	B51	デジタルコンテンツ演習3	2.3		2		演習				0		
	科	B52	デジタルコンテンツ演習4	2.3		2		演習				0		
		B53	モバイル・コミュニケーション	1.2		2		講義		0	0	0		
	ケー	B54	マルチメディア表現	3•4		2		演習		0	0	0		
	'	B55	情報機器利用プレゼンテーション演習	3•4		2		演習		0	0	0		

			が来り ロックな	配当		立数 ス 寺間 数		授業	英語	日本	ションメンジ	実践さ	社 任会 用福	Alle-de.
		ł	受業科目の名称	年次	必修	選択	自由	形態	数職	新数員	ン実務士	実務士リア	資祉格主	備考
		B56	コミュニケーション概論	2.3	1534	2	Щ	講義		0	0	Ó	-	
		B57	マスコミュニケーション概論	2.3		2		講義						
		B58	異文化コミュニケーション	1.2		2		講義	0	0	0			
		B59	プレゼンテーション技術	1.2		2		講義		0	0	0		
		B60	スピーチ・コミュニケーション	1.2		2		演習		0	0			
	人 間	B61	非言語コミュニケーション論1	1.2		2		演習		0	0			
	コ	B62	非言語コミュニケーション論2	1.2		2		演習		0	0			
	2 7	B63	演劇表現論	2.3		2		演習		0	0			
	=	B64	メディア表現論	3•4		2		講義		0	0			
	ケー	B65	ポップカルチャー論	1.2		2		講義		0	0			
	シ	B66	社会学概論	1.2		2		講義				0		
	ョン	B67	心理学概論	1.2		2		講義		0	0	0	0	
	理	B68	カウンセリング	2.3		2		講義	0			0		
	解 関	B69	教育心理学	1.2		2		講義	0	0	0	0		
	連	B70	発達心理学	3.4		2		講義		0	0	0		
	科目	B71	社会心理学	2.3		2		講義		0	0	0		
	н	B72	教育社会学	1.2		2		講義	0	0				
		B73	社会福祉	1.2		2		講義					0	
		B74	老人福祉	2.3		2		講義					0	
		B75	健康と医学	2.3		2		講義						
		B76	リスク・コミュニケーション	2.3		2		講義						
専		B77	ビジネス・コミュニケーション	1.2		2		演習		0	0	0		
門		B78	教職概論	1.2		2		講義	0					
科目		B79	教育原理	1.2		2		講義	0				0	
		B80	心身障害児教育 I	2.3		2		講義	0	0				
		B81	心身障害児教育Ⅱ	2.3		2		講義	0	0				
		B82		1.2		2		講義		0	0			
	Ħ	B83	日本文化論2	3•4		2		講義		0	0			
	本理	B84	日本社会論1	1.2		2		講義						
	角军	B85	日本社会論2	1.2		2		講義						
	関 連	B86	日本社会論3	2.3		2		講義						
	科	B87	日本語教育史	3.4		2		講義		0				
	目	B88	教育行政学	3.4		2		講義						
		B89	道徳教育の研究	2.3		2		講義	0					
		B90	国際コミュニケーション	1.2		2		講義	0	0				
		B91	国際関係	3.4		2		講義		0				
	玉	B92	国際政治史	1.2		2		講義						
	際		日中交渉史	2.3		2		講義		0				
	事 情	B94	国際経営	3.4		2		講義		0		0		
	理	B95	ビジネス・マネジメント	3.4		2		講義			0	0		
	解 関		国際金融	3.4		2		講義		0		0		
	連		国際文化交流	1.2		2		講義	0	0	0	0		
	連科目		地域文化事情1	1.2		2		講義		0		0		
			地域文化事情2	1.2		2		講義				0		
			地域文化事情3	1.2		2		講義				0		
		B101	地域文化事情4	1.2		2		講義				0		

授業科目の名称			配当	単位数又は 時間数			授業	英語	日本版	ションゼ	実践キャ	社 任会 用福	備考	
	1文来件日の名称				必修	選択	自由	形態	数職	本語教員	実務士	サナッア	資祉 格主 事	THI 45
専		B102	地域文化事情5	1.2		2		講義	0			0		
門		B103	地域文化事情6	1.2		2		講義	0			0		
科目		B104	地域文化事情7	3.4		2		講義				0		
		B105	地域文化事情8	3.4		2		講義	0			0		
	国際コミュニケーション実習	B106	海外研修	2.3		6		実習						国際コミュニケーション実習
専		B107	インターンシップ1	2.3		2		実習				0		選択必修単位数 6単位
門		B108	インターンシップ2	2.3		2		実習				0		上記の必修単位及び選択必修単位を
実習科		B109	ボランティア1	2.3		2		実習	0			0		除き、言語コミュニケーション科 目、デジタルコミュニケーション科
		B110	ボランティア2	2.3		2		実習	0			0		目、人間コミュニケーション理解関 連科目、日本理解関連科目、国際事
目		B111	日本の伝統文化1	3.4		2		演習						情理解関連科目、国際コミュニケー ション実習より選択必修62単位以
		B112	日本の伝統文化2	3.4		2		演習						上。
専門	関連ゼミケーション	B113	演習1	3	2			演習						国際コミュニケーション関連ゼミ
ゼ		B114	演習2	3	2			演習						必修単位数 8単位
ミ科		B115	演習3	4	2			演習						
目		B116	演習4	4	2			演習						

			単位数又は 時間数			علاد تصل	英語	E *	プレゼ	実 践 キ	社会福	
授業科目の名称		配当 年次	必修	選択	自由	授業形態	節數職	本語彰貝	実務士	士 サア実務	資格主 事任用	
B21	教育方法·技術	3				演習	0	0				
B21	プレゼンテーション演習 [	1				演習		0	0	0		
B22	プレゼンテーション演習Ⅱ	2				演習		0	0	0		
B22	日本語表現法	1.2				講義		0	0	0		

上記以外の科目は教職課程だけの科目のため省略。

## 履修方法

	必 修	選択 必修		卒業要件単位					
	文化		9						
基	社会								
基礎科目	科学				20単位以上				
目	スポーツ								
	総合科目	11							
	言語コミュニケーション科目	8	4	-					
専	デジタルコミュニケーション科目		4						
専門科目	人間コミュニケーション理解関連科		4						
Ħ	日本理解関連科目		4	62	96単位以上				
	国際事情理解関連科目		4						
科実専 目習門	国際コミュニケーション実習		6						
科ゼ専 目ミ門	国際コミュニケーション関連ゼミ	8			8単位				
	合計	27	97		124単位以上				

新教育課程の最大の特徴はキャリア・デザインに象徴されるように、キャリア教育を全面に押し出したことである。さらに、学生のキャリア支援にもつながる資格取得がこれまで以上に卒業要件科目とリンクしたことによって、モチベーションもより高まることが期待できることだ。そのことは「新教育課程と資格等との履修上の関係」を見れば一目瞭然である。キャリア教育にとって重要なことは「キャリア・アップ」と「問題解決能力の開発」である。具体的には「キャリア・アップ」については資格等の取得が最も目に見える形となろう。しかし、これにはいわゆる社会人としての基礎力、教養が基盤となっていることは言うまでもないことだ。デジタルツールを使いこなせても、一般的なマナーが身に付いていないことも大きな問題である。また、「問題解決能力の開発」は、机上では体験できないこと、体験型の学習も大きな意味を持つこととなろう。いわゆる「マニュアル人間」ではなく、自ら考え、行動し、解決に導いていくためにはグループワークなども必須である。こうしたことを具現化したものが「実践キャリア実務士」である。

新科目「キャリア・デザイン1~6」については2011年度より単位化しない講座「インテリジェンス・レッスン」としてまず導入した。昨今の学生は単位を取得することだけを意識しており、単位外となるとモチベーションは著しく低くなる。こうした経験から本学ではキャリア教育は必修科目として位置付けることとなり、1年次より段階を追って始めることから1年~3年次までの配当年次とした。

新科目「キャリア・デザイン1~6」の担当者はキャリア教育を推進するために、就職部長を兼務している学長とインテリジェンス・レッスンの担当者であった鈴木映衣子講師、高知利香講師が担当することとなった。なお、必要に応じて1・2年の担任も授業にサポーターとして参加することで学生指導との連携を図る予定である。新教育課程の完成は2017年3月である。

なお、本報告書は以下のものをまとめたものである。また、一部はこれまでに発表等したもの を一部転載乃至は加筆修正した。

『武蔵野学院大学設置認可申請書』(2003年5月)

『武蔵野学院大学教員免許課程認定申請書』(2003年9月)

『プレゼンテーション実務士教育課程認定申請書』(2003年12月)

佐々木隆『教職課程と英語教育』(イーコン、2006年5月)

佐々木隆『今後の教職課程と英語教育』 (イーコン、2008年5月)

佐々木隆「改正教育基本法に関する一考察」(『武蔵野英語教育研究』第2巻第1号、武蔵野英語 教育研究会、2008年10月)

佐々木隆「教養教育に関する一考察 事例 武蔵野学院大学の場合」(『武蔵野教育研究』第2巻 第5号、武蔵野教育研究会、2009年2月)

佐々木隆『新しい教職課程と英語教育』(イーコン、2009年4月)

佐々木隆「コース制度に関する一考察 事例 武蔵野学院大学の場合」(『武蔵野教育研究』 第 2巻第6号、武蔵野教育研究会、2009年6月)

佐々木隆「日本における『コミュニケーション』受容史」(『武蔵野学院大学大学院研究紀要』第

3輯、2010年4月)

佐々木隆『英語教育の行方』(イーコン、2011年5月)

『実践キャリア実務士教育課程認定申請書』添付資料(2012年7月)

『武蔵野学院大学大学院・武蔵野学院大学・武蔵野短期大学 学生便覧』(2012年4月)

『武蔵野学院大学国際コミュニケーション学部 履修の手引き』(2012年4月)

武蔵野学院大学ホームページ(http://www.musashino.ac.jp)(2012 年 12 月 20 日アクセス)

- (1) 新村出編『広辞苑』(第六版) (2008年1月、岩波書店)、p.740.
- (2) 「21 世紀日本の構想 日本のフロンティアは日本の中にある」 (http://www.kantei.go.jp/jp/21century/houkokusyo/1s.html)
- (3) Ditto.
- (4) 辰野千寿編『学習指導用語事典』(教育出版、1987年6月) には山下直治「教授—学習過程」, p.64.
- (5) Ibid., p.279.
- (6) 東洋・奥田真丈・河野重男編代表『学校教育辞典』(教育出版、1988年6月), p.168.
- (7) 岩内亮一・萩原元昭・深谷昌志・本吉修二編『新版教育学用語辞典』(学文社、1990 年 10 月、第2版), p.101.
- (8) 細谷俊夫他編『新教育学大事典』(第一法規出版、2000年7月), p.292.
- (9) 今野喜清・新井郁男・児島邦宏編代表『新版学校教育辞典』(教育出版、2003年2月5日), p.319.
- (10) 『中学校学習指導要領』(1989年3月告示)
- (11) 『高等学校学習指導要領』(1989年3月告示)
- (12) 『中学校学習指導要領』(2003年12月一部改訂)
- (13) 『高等学校学習指導要領』(2003年12月一部改訂)
- (14) Ditto.
- (15) 岩内亮一・本吉修二・明石要一編代表『教育学用語辞典[第四版]』(学文社、2006年5月), p.101.
- (16) 中央教育審議会「新しい時代における教養教育の在り方について(答申)」(2006年2月21日) (http://www.mext.go.jp/b-menu/shingi/chukyo/chukyoO/toushin/O20203ahtm)
- (17) Ditto.
- (18) Ditto.
- (19) Ditto.
- (20) Ditto.
- (21) Ditto.
- (22) Ditto.
- (23) Ditto.
- (24) Ditto.
- (25) Ditto.
- (26) Ditto.
- (27) Ditto.
- (28) 浅羽通明『大学で何を学ぶか』(幻冬舎、1996年4月), pp.147-148.

- (29) 飯田史彦『大学で何をどう学ぶか』 PHP研究所、2001年4月), p.29.
- (30) 溝上慎一『大学生の学び・入門』(有斐閣、2006年3月), p.v.
- (31) Ibid., p.39.
- (32) 川村邦光「大学に教養はあるか」(『世界思想』第36号、世界思想社、2009年4月), p.29.
- (33) 加藤諦三『大学で何を学ぶか』 KKベストセラーズ、2009年5月), pp.62-63.
- (34) 角方正幸・松村直樹・平田史昭『就業力育成論』学事出版、2010年8月), p.82.

佐々木 隆 (武蔵野学院大学教授・教務部長)

鈴木映衣子 (武蔵野学院大学非常勤講師 担当科目「キャリア・デザイン1~6」)

高知 利香 (武蔵野学院大学非常勤講師 担当科目「キャリア・デザイン1~6」)

# 武蔵野学院大学キャリア教育報告書(2011~2012年度)

著 者 佐々木隆、鈴木映衣子、高知利香

発行日 2013年4月20日

発行所 武蔵野学院大学佐々木隆研究室

₹350-1328

埼玉県狭山市広瀬台 3-26-1

TEL 04-2954-6131 FAX 04-2954-6134

HP http://www.musashino.ac.jp